臺灣總督府

中央研究所農業部彙報

第百十九號

豚コレラに關する研究

第二報

豚コレラの病理解剖學的所見

臺灣總督府中央研究所

昭和十一年七月

曩に豚コレラに關する研究第一報を刊行し該患畜の血液變狀を明かにし診斷上の指針とせり。本彙報は引續き其病理解剖學的檢索に基く所見を輯錄して上梓せるものなり。蓋し本症診斷上第一報と共に重要なる指針たるべし。

昭和十一年七月

臺灣總督府中央研究所農業部長
農學博士 澁谷紀三郎

臺灣總督府中央研究所 農業部彙報 第百十九號

豚コレラに關する研究

第二報 豚コレラの病理解剖學的所見

目 次

緒 言……1
I. 實驗例……2
A. 自然感染例……2
B. 人工感染例……42
II. 病理解剖……45
III. 病理組織……48
總 括……51
文 献……54
圖版說明……55
圖版 第一圖版—第六圖版

豚コレラに關する研究

第二報

豚コレラの病理解剖學的所見

技師 獸醫學博士 小倉喜佐次郎
技手 板垣啓三郎
臺北帝國大學助手 龜山勤*

緒言

豚コレラの解剖學及組織學的所見は從來多數の研究者によりて報告せられ、その結果本症の診斷殊に野外診斷に於て解剖變狀を知るは缺くべからざる要件となるに到れり。其主なるものは皮膚、淋巴腺、腎、粘膜及漿液膜下の出血斑、肺及脾に於ける出血性梗塞、腸就中大腸に於けるヂフテリー性炎症等なり。

近時に於ても尙病理解剖及組織に關する研究報告續々發表せらる。其の主なるもの二三を擧ぐれば David und Schwarz, Röhrer, Eberbeck, Seifried and Cain, Lüttschwager の如き是なり。

David und Schwarz に據れば、多數の人工感染例中、混合感染なき例に於て肉眼上認めらるゝ著明の變狀は次の如し。

淋巴腺の變狀(腫脹、充血、出血)を呈したるもの 109 例中 103 例。出血性胃炎。大腸の出血性炎症、壞疽性ヂフテリー性炎症。脾の出血性及貧血性梗塞、全實驗例(純粹及混合感染を合し)の凡そ55—60%に於て之を認む。腎の出血、109 例中 65 例。腎盂、輸尿管、膀胱粘膜の出血、109 例中 30例。是等の變狀中脾の梗塞は診斷上最重要視すべき變狀にして人工感染例に於て頻發するも自然感染にては比較的少しと云ふ。

Röhrer は前記 David und Schwarz と同材料を以て組織學的研究を行ひ、淋巴腺の變狀につきては細小動脈の內皮細胞の腫大、增殖又は退行變性及栓塞、實質に於ては細胞に乏しき部分に於ける多少の出血、網狀纖細胞の腫脹、增殖、脂肪變性、Hämosiderin の沈著及血管周圍の壞疽を認めたり。中心神經系につきては78例中59例に於て之が變狀を認めたり。其內血管の變

* 技師小倉喜佐次郎が臺北帝國大學助敎授としての助手なり。

狀は最も著しく、血管の細胞浸潤は常に認められ。其大部分は其部位にて生產せられたるものにして主として Histiocyten より成る。之に亞ぎて神經細胞の變性も認められるものにして、殊に血管の細胞浸潤の存在する例に著し。更に脾臟に就ては脾緣に存在する脾梗塞は最も著しき所見にして濾胞動脈の變狀に起因し、貧血性又は混合梗塞なりと認むべしと云ふ。梗塞なき脾實質の變狀は輕度にして髓質細胞の增加、濾胞周圍の充血、稀に認められるゝ核の崩壞せる小病竈の存在等指摘せらる。Eberbeck に據れば急性症の組織學的診斷に對し中樞神經系及副腎の變狀は大なる意義を有し、特に血管及其周圍に於ける淋巴樣細胞の浸潤に注目すべしと云ふ。Seifried and Cain の如きも本症に於ける各種臟器の組織につき研究し、略同樣の結果を報告す。Lüttschwager は腎の出血點の重要視すべきを特に力說す。

要之最近行はれたる急性豚コレラの病理組織學的研究の結果、本病の死後診斷上疑はしき場合に注目すべき組織所見は腦炎、血管の變狀、及之に起因する各種臟器の變狀（淋巴腺、脾、腎等に於ける出血、壞疽、梗塞等）なりと云ふべし。

余等も臺灣に於ける豚コレラの病理解剖學的研究を主として統計的に行ひ、最も頻發する變狀の探究を試み、本症の診斷に資せんとしたり。本研究報告に於ては自然感染69例人工感染 5 例に於ける胸腔及腹腔內臟器の所見を記述せんとす。

I. 實 驗 例

A. 自然感染例

第1例 バークシヤー 牝 生後3箇月 臺北市 上妻氏所有

昭和七年二月下旬約50頭を飼養する同氏の仔豚に豚コレラ發生し、三月に入りて成豚にも感染す。此爲仔豚全滅し、成豚の斃死するもの續出し遂に養豚を中止するに到れり。

本例は三月十三日斃死したるものにして、十四日に解剖に附す。屍體著しく腐敗す。

主なる解剖所見

肺、心、肝、腎、脾に著明の變狀を認めず。

腸：小腸には著明の變狀なきも、大腸殊に盲腸は一樣にヂフテリー性義膜に被はる。結腸及直腸は廣く帶狀又は斑紋狀にヂフテリー性義膜を被る。結腸の所々には徑約 5mm の釦狀結節存在す。

淋巴腺：皮下及內臟淋巴腺著しく腫大し赤色を帶び、出血せるもの少からず。殊に腸間膜淋

巴腺は腫大著しく出血せるもの多數なり。

内臓の細菌培養陰性なり。

第2例　バークシヤー　牝豚　生後1箇年　同上所有

三月十八日發病後2週間にして斃死す。翌十九日解剖に附す。

主なる解剖所見

肺に著變なく、心臓には中等度の擴張あり。肝には著變なし、腎の皮質には多數の出血斑あり。腎盂にも多量の凝血を容る。出血斑の發生著明にして皮膚、皮下、筋肉内、脾、小腸、大腸等にも多數の出血斑認めらる。腸：結腸に少數の鈕狀結節（徑約 5mm）存在す。

淋巴腺：皮下及内臓淋巴腺著しく腫大し、出血を示すものゝからず。

内臓の細菌培養陰性なり。

第3例　バークシヤー　牝　生後5箇月　同上所有

三月十九日發病後3日にして斃死す、卽日解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚出血斑の發生著明なり。

肺には出血斑の發生夥しく、且小指頭大—拇指頭大の無氣、漿液浸潤部散發す。此部の喰抹標本に細菌を認めず。心臓に著變なし。肝臓には多數の小出血斑あり、著明に混濁す。腎臓の皮質部には多數の粟粒大—米粒大出血點存在し、混濁著明なり。脾臓は輕度の傳染脾を呈す。胃の大彎部の粘膜は出血斑に被はる。腸粘膜はカタールを呈するも義膜を形成せず。

淋巴腺：皮下及内臓淋巴腺著明に紅腫し、斷面に於て赤色、白色部相交雜す。

内臓の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肺：無氣浸潤部を檢するに肺胞内に腫大せる脫落上皮細胞、漏出せる赤血球及漿液の浸潤認められ、細小なる靜脈の周圍に小なる壞疽病竈多數に存在す。

肝：少しく鬱血あり。肝細胞の混濁腫脹著しく各細胞離解し、壞死せる細胞多數に散在す。小葉内に nekrobiotische Herde の形成極めて著明なり。（病理組織の條下參照）。

腎：皮質の間質に毛細管出血を認む。曲細尿管上皮混濁腫脹し、多數は核の濃縮を示す。

脾：髓質大いに血液にさみ、壞死せる固有組織を僅に認むるのみ。淋巴濾胞は殆ど悉く壞疽に陷るか又は消失す。

淋巴腺：殆ど全組織壞疽に陷る淋巴腺極めて多し。出血殊に著し。

第4例　バークシヤー　牝　生後4箇月　臺北州新莊郡　所有者不詳

五月二十八日瀕死期にあるものを解剖に附す。發病後4日なり。

主なる解剖所見

皮膚に出血斑の發生少數なり。

肺には出血斑少數にして、小なる無氣浸潤部散在す。心は大いに擴張し心筋柔軟なり。肝に著變なし。腎は出血點少數且溷濁す。脾僅に血液にミみ腫大す。胃の大彎部粘膜は出血斑に被はる。腸：小腸には出血點多數存在し、カタール性なり。大腸には出血斑密發し、且全部に亘り小指頭大の釦狀結節密發し、殊に結腸に存在するものは結節相互に融合し大形にして形狀不規則なり。

淋巴腺：皮下及內臟淋巴腺の紅腫著しく、悉く出血す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、著し。肝細胞の脂肪變性に陷るもの夥多なり。小葉內の小なる nekrobiotische Herde 少數に存在す。

腎：皮質の間質に少數の毛細管出血あり。細尿管上皮の變性著明ならず。細小靜脈周圍に少しく淋巴樣細胞の集積あり。

脾：淋巴濾胞明ならず、此部に充血を認む。Hülsenarterie の爽組織に赤血球浸潤す。

淋巴腺：周緣部に充血、出血著し。材質には漿液の浸潤著しく、毛細管は一般に肥大し、內皮細胞增殖す。

第5例　バークシヤー　牡　生後5箇月　臺北市　某豚舍所有

七月十一日發病。十三日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺に多數の出血斑を認む。肝に多數の出血斑あり、少しく溷濁す。腎に少數の出血點あり、少しく溷濁す。脾少しく血液に富み腫脹す。腸はカタールを示し、盲腸に少數の小ヂフテリー性結節あり。淋巴腺：皮下及內臟淋巴腺著明に腫大し、內臟淋巴腺中には出血を示すもの少からず。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞の大部分は脂肪變性に陷る。各小葉内に多數の小なる nekrobiotische Herde 又は淋巴樣細胞の集團認めらる。小葉間質にも淋巴樣細胞の集積著明なり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹に陷る。細胞質の崩壞せるもの、核の濃縮を呈するもの少からず。皮質の毛細管内に僅に淋巴樣細胞の集積あり。

脾：淋巴濾胞萎縮充血し、殆ど認められざるものも存在す。その周圍の充血も著明なり。Hülsenarterie 壁肥大し、多數の壞死細胞を示し、赤血球に富む。

淋巴腺：充血及浮腫著明なり。nekrobiotische Herde 多數に存在す。

第6例　バークシヤー　牝　生後9箇月　臺北市　某豚舍所有

七月十一日發病。十三日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺に多數の出血點あり。肝腎充血し少しく混濁す。脾に多數の小出血斑認めらる。腸：小腸に强きカタールあり。大腸大いに充血す。

淋巴腺：全身淋巴腺腫脹するも、赤色を呈し、又は出血するもの少數なり。

内臟の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血著明なり。肝細胞の混濁腫脹、脂肪變性や、著しく、核の濃縮に陷るもの夥多なり。多數の小葉内に大小種々なる nekrobiotische Herde 存在す。又小葉内毛細管内に淋巴細胞の結節狀に集積せるもの點々と認めらる。間質にも淋巴樣細胞の集積や、著明なり。

腎：曲及直細尿管上皮の變性著しく、壞死に陷れるもの、混濁腫脹せるもの、脂肪變性せるもの極めて多く、充血も相當に高度なり。

脾：淋巴濾胞萎縮し消失せるものも多し。其周圍に充血あり。淋巴濾胞及髓質中に nekrobiotische Herde 多數に存在す。全淋巴濾胞壞死せるものも存在す。Hülsenarterie 壁肥大し、壞死細胞を雜へ、赤血球に富む。

淋巴腺：大いに充血あり。浮腫もや、著し。所々に小なる nekrobiotische Herde 認めらる。

第7例　バークシヤー　牝　生後2年6箇月(仔豚哺乳中)　臺北市　某豚舍所有

七月十一日發病。十三日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺に出血斑多數なり。肝腎共に血液に富み溷濁す。脾腫大し血液に富む。出血斑多數なり。腸は全體に亘り充血す。

淋巴腺：各部の淋巴腺漿液に富む。赤色を呈するもの稀なり。

內臟の細菌培養は陰性なり。

主なる組織培養

肝鬱血著明なり。肝臟は著明に浮腫に陷る。小葉中心部の肝細胞悉く壞死し中間部は肝細胞の水腫性變性著明にして邊緣部は浮腫著明ならざれど、溷濁乃至脂肪變性に陷る肝小葉大多數を占む。中には中心部の壞死部大にして僅に邊緣部に水腫性變性せる肝細胞を殘すに過ぎざるものあり。又全小葉の肝細胞悉く壞死せるものも認めらる。其他の一部の小葉の肝細胞は殆ど悉く脂肪變性又は溷濁腫脹に陷り、且小なる nekrobiotische Herde 存在するも肝細胞の浮腫等著明ならず。小葉質の淋巴樣細胞の集積著し。

腎：曲竝に直細尿管上皮の壞死、脂肪變性、溷濁腫脹せるもの及崩壞せるもの夥し。

脾：淋巴濾胞の萎縮消失あり。其周圍に充血あり。髓質も亦血液に富む。間質の增殖著し、淋巴濾胞及髓質中に nekrobiotische Herde 多數に存在す。Hülsenarterie の莢組織肥大し、且赤血球の浸潤存在す。

淋巴腺：充血あり。間質の漿液浸潤著明なり。實質中細胞に乏しき部に nekrobiotische Herde 多數に存在す。

第8例　バークシヤー　牡　生後1箇月　臺北市　某豚舍所有

七月十二日發病。十四日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺出血斑極めて多數にして、且兩肺の前中葉赤色肝變に陷る。壞疽病竈を認めず。肝腎血液に富み溷濁す。肝には尙出血斑多數に認めらる。

脾少しく血液に富み、腫大し、溷濁す。出血斑多數なり。腸充血ニカタールを示すのみ。

淋巴腺：全身淋巴腺著しく腫大し、赤色を呈し出血するもの多し。

內臟の細菌培養に於て肺の肝變部より豚疫菌多數に發育す。

主なる組織所見

肺：肝變部血液に富み、肺胞は圓形細胞、漿液の浸潤にて充滿し且肺胞上皮の剝離あり。氣管支も圓形細胞を充たす。壞死病竈を認めず。

肝：大いに鬱血す。肝細胞の變性著しく、脂肪變性著明なり。各細胞悉く離解し、核も一樣

に濃縮に陷る。小葉内には nekrobiotische Herde や、少數なり。小葉間質に淋巴樣細胞の集積あり。且間質細胞も浸潤細胞も核は濃縮に陷る。小葉内にもか、る淋巴樣細胞の結節狀に毛細管内に集積せるもの存在す。

腎：細尿管特に曲細尿管上皮及絲毬體の變性著しく、核の濃縮を呈するもの殆ど全部にて又上皮の解離せるもの夥多なり。

脾：髓質は血液に富む。髓質細胞の核の濃縮を呈するもの多く、淋巴濾胞の壞死せるものも認められ且 Hülsenarterie 壁の壞死せるもの極めて多し。

淋巴腺：充血又は出血し、浮腫著しく固有細胞の集團粗鬆なり。

第9例　バークシヤー　牡　生後4箇月　臺北市　某豚舍所有

七月二十三日發病後約2週間のものを屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は兩肺ごも前中葉の全部及後葉の前下部赤色肝變に陷る。切斷するに氣管支より膿樣液を漏出す。小出血點多數に散在す。肝、腎渾濁あり脾少しく腫大し、や、血液にごむ。出血斑少數なり。胃幽門部に出血點を認む。腸は盲腸大いに充血し、粘膜暗赤色を呈し、小出血斑を認む。結腸、直腸の大部分纖維素性義膜に被はる。且多數の米粒大—大豆大の潰瘍散發又は密發す。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大す。内臟淋巴腺には赤色を呈するもの多く殊に腸間膜淋巴腺は出血著し。

内臟の細菌培養に於て肺の肝變部より豚コレラ菌 (Salmon and Smith) 多數に發育す。

主なる組織所見

肝：輕度の鬱血あり。小葉内毛細管實狀に擴張す。星狀細胞に Haemosiderin 沈著あり。小葉間質僅に增殖し、淋巴樣細胞僅少に認めらる。

腎：曲細尿管の上皮細胞大に混濁腫脹し、核は殆ど悉く濃縮に陷る。此部の毛細管や、著しく擴張し、多量の赤血球を充滿す。

脾：濾胞の周圍少しく血液に富む。Hülsenarterie 壁肥大す。

淋巴腺：腸間膜淋巴腺大いに血液に富み、淋巴竇附近の實質には著しく出血す。

第10例　バークシヤー雜種　牝　生後4箇月　臺北州羅東郡　陳阿有所有

九月六日頃發病す。同十一日の體溫 41.5度なり。同二十五日の體溫40度にして元氣なく倒斃す。同日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺には小脾變部（徑3—6cm）全葉に散在す。小出血斑多數に存在す。肝、溷濁す。腎、皮質少しく溷濁す。膀胱に少數の出血點あり。脾、濾胞明ならず。腸：結腸に拇指頭大の潰瘍散在し、中には腸壁を穿通するものあり。腹膜の所々に纖維素を附着し腹水や、多量なり。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫脹せるも赤色を帶ぶるもの稀なり。

內臟の細菌培養に於て肺の脾變部より一種の連鎖狀球菌多數に發育す。

主なる組織所見

肺：脾變部の肺胞內及氣管支內には圓形細胞の浸潤粗粗に存在するのみ。

肝：僅少の鬱血あり。肝細胞溷濁腫脹す。小葉內に存在する大小種々の nekerobiotishe Herde 多數に認めらる。殊に間質に接する部に多く、肝細胞集合して巨態細胞を形成するもの多し。間質に淋巴樣細胞の集積あり。

腎：絲毬體內に出血を認むるもの少數に存在す。曲細尿管上皮の溷濁腫脹著明なり。脂肪變性に陷るもの又は崩壞せるもの夥多なり。間質殊に絲毬體の附近に於て淋巴樣細胞の集積認めらる。

脾：殆ど濾胞を認めず。此部に充血—出血あり。間質細胞に富み髓質細胞殆んど認められず。Hülserarterie 壁肥大し、且壞死細胞を多數に認む。

淋巴腺：少しく血に富み、浮腫ありて實質細胞粗粗なり。

第11例　バークシヤー　牡　生後4箇月　臺北州七星郡　賴添有所有

九月十五日發病し、帶黃青色の鼻漏を認む。同十七日 40cc、同十九日 50cc の豚コレラ免疫血清を注射す。其後鼻漏を出さず食慾や、良好となる。

九月二十八日屠殺解剖に附す。本例は八月六日に豚コレラワクチン 4g 注射せられたり。

主なる解剖所見

肺は兩肺とも中葉の尖端に無氣浸潤部あり。小出血斑多發し、切斷するに水分に富む。肝は著しく血液に富む。腸：小腸にカタールあり、小血斑を散發す。大腸殊に盲腸粘膜に多數の瘢痕を認む。腹膜：纖素の析出あり、腹水もや、增加す。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、內臟淋巴腺には赤色を呈するもの少からず。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肺：無氣浸潤部を檢するに此部の毛細管血液に富み、肺胞は漿液の浸潤をうけ多數の剝離上皮細胞及赤血球を容る。

肝：鬱血高度にして浮腫も亦强し。肝細胞の萎縮甚しき小葉多し。少數の小葉に於て nekrobiotische Herde を認む。小葉內毛細管に結節狀に淋巴樣細胞の集積を認むるものあり。小葉間質にも僅少に淋巴樣細胞の集積を認む。

脾：淋巴濾胞及其周圍血液に富む。Hülsenarterie 壁肥大し、壞死細胞多數に認めらる。

腎：皮質少しく血液に富み、竇狀に擴張するもの少からず。曲細尿管殆ど全く溷濁腫脹す。

淋巴腺：少しく充血する外著しき變狀なきもの多し。內臟淋巴腺には淋巴竇に近接する實質に出血を呈するもの少からず。

第12例　バークシヤー　牝　生後3箇月　同上所有

前例と全く同樣の病歷を有し且處置をうけたり。

九月二十八日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は小出血斑を密發す。心、肝、腎、脾に著變なし。腸：盲腸、結腸の所々に癜痕を認む。

淋巴腺：腫大し赤色を呈するもの多し。

內臟の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血あり。小葉內に結節狀に淋巴樣細胞の集積するもの少數を認む。小葉間質にも少許の同細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮に輕度の溷濁腫脹を認む。

脾：Hülsenarterie 壁肥大し、血液にとみ、壞死細胞多し。淋巴濾胞周圍血液にとむ。

淋巴腺：僅に血液にとみ、間質の增殖やゝ著しきもの多し。

第13例　バークシヤー雜種　牝　生後3箇月　新竹州桃園郡　周樹所有

十月五日發病す。十日食慾始ど廢絕す。十二日體溫 41.5度、十三日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚に多數の小出血斑存在す。肺には少數の出血斑あるの外著變なし。肝には著變なし。腎には皮質部に多數の小出血斑存在す。脾は少しく血液に富み腫大す。少數の出血性梗塞認めらる。胃の大彎部に點狀出血斑少數あり。

腸：盲腸、結腸に小指頭大の潰瘍少數に散在す。直腸の後部に小出血斑多發す。

腹膜は纖素を附着す。腹水や、多量なり。

淋巴腺：全身淋巴腺著しく腫大し、内臓のものは赤色を呈し出血するもの多し。

内臓の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉間質の增殖や、著しく、淋巴樣細胞の集積あり。少數の小葉内に細小なる nekrobiotische Herde を認む。小葉中心靜脈及毛細管の内皮細胞の增殖著しく管腔を殆ど充塞するもの多し。

腎：充血し、皮質部に毛細管出血少からず曲細尿管上皮の混濁腫脹著しく、脂肪變性に陷るもの少からず。小葉間質及毛細管内に淋巴樣細胞の集積顯著なり。

脾：淋巴濾胞は殆ど認められず。その部は殆ど全く出血竈となる。髓質間質細胞に富む。Hülsenarterie 充血し、壁の壞疽に陷るもの多し。やゝ大なる壞疽性結節少數に存在し、何れも Hülsenarterie の壞疽に陷れるものと連接す。

淋巴腺：淋巴竇に近接する部充血し、出血を示す。實質は間質細胞にとみ、材質は浮腫す。

第14例　バークシヤー雜種　牝　生後5箇月　新竹州桃園郡　邱枝所有

十月四日發病す、九日食思を缺く、十日體溫 38.8度、十一日體溫 41.5度、下痢す。十二日體溫 41.1度、十三日屠殺解剖に附す。

主なる所見

肺、心、肝、脾、腎、胃に著明の變狀なし。腸：小腸にカタールあり。結腸充血し、小出血斑を少數に發生す。1 箇の指頭大の古き潰瘍あり。且粘膜に多數の白色平滑なる指頭大の部分（瘢痕）あり。

淋巴腺：腹腔内淋巴腺輕度に腫脹し且赤色を呈するも出血を呈するもの少し。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血あり。肝細胞少しく混濁腫脹す。

腎：直細尿管及曲細尿管上皮混濁腫脹す。且脂肪變性に陷るもの、崩壞せるもの少からず。間質には淋巴樣細胞の集積著明なり。殊に皮質の細小動脈に沿へるもの著し。

脾：淋巴濾胞及其周圍に充血著明にして出血を認むるもの少からず。Hülsenarterie 壁少しく

肥大し、血液にごみ、壞死細胞多量なり。

淋巴腺：淋巴竇に近接せる部少しく充血す。

實質内の毛細管壁肥大す。

第15例　バークシヤー雜種　牝　生後7箇月　新竹市　彭金興所有

十月五日新に購入したるものにして、其當時より元氣、食慾なかりしと云ふ。十二日體溫40.5度十三日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚には出血斑多數に散在す。殊に腹部に密發す。

肺、小出血斑少數なり。拇指頭大の出血性梗塞10數箇存在す。氣管及氣管支内には赤色粘液多量に存在す。心の内外膜下に多數の小出血斑あり。肝には著明の變狀を認めず。腎の皮質部に多數の小出血斑存在し且强く溷濁す。左腎盂は凝血を以て充さる。膀胱内の尿は赤色なり。脾出血性梗塞少數に存在す。胃は大彎部に多數の小血斑あり。腸：小腸は一面に米粒大の小血斑を散發す。大腸粘膜は充血し、多數の小血斑を示し、無數の壞疽點あり。且盲腸結腸には此外に 6—20mm の徑を有する釦狀結節を散發す。

淋巴腺：各部の淋巴腺著しく腫大し、暗赤色を呈し、出血著明なり。

内臟の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肺：出血性梗塞の部分を檢するに此部の組織壞死し、肺胞内に血液を充滿す。

肝：肝細胞は輕度に溷濁腫脹す。極少數の小葉内に細小なる nekrobiotische Herde を認む。

腎：皮質部の所々に細小動脈又は靜脈に沿ひ淋巴樣細胞の集積せる部分存在し且毛細管出血散在す。曲細尿管上皮溷濁腫脹し且其上皮の剝離せるものを認むること少からず。

脾：淋巴濾胞明ならず。其部位は頗る血液に富む。

淋巴線：淋巴竇の近接部の實質大いに充血し、出血著しく且かゝる出血組織中には多數の nekrobiotische Herde を認む。

第16例　バークシヤー雜種　牝　生後5箇月　臺南州虎尾郡　高九所有

十一月二十日患畜元氣食慾なく下痢す。削瘠著明なり。屠殺解剖に附す。

皮膚は全身に亘り出血點多數に存在し、殊に腹部に密發す。

肺は小出血斑を密發す。切斷するに漿液に富む。心の内外膜下に血斑散在す。擴張、軟化、

溷濁あり。心嚢水多量なり。肝、溷濁す。血液に富み、小出血斑多數。腎は皮質部溷濁し、出血點多數なり。腎盂は凝血を充す。脾は傳染脾なり。約4倍に腫大す。胃は大彎部粘膜充血し、小血斑を無數に密發す。腸：小腸には小出血點散發す。盲腸、結腸の粘膜充血し、著しく腫脹し出血點を示す。無數の圓形乾酪病竈（小なるは點狀より大なるは指頭大に及ぶ）密發し、其中央に出血を示すもの多し。此部の腸壁は膠樣浸潤をうけ大いに腫脹す。

淋巴腺：各部の淋巴腺著明に腫大し、暗赤色を呈し、出血顯著なり。

内臟の細菌培養に於て肝及脾より豚コレラ菌多數に發育す。

主なる組織所見

肝：大いに鬱血す肝細胞核の濃縮を呈するもの少からず。小葉内には著明なるnekrobiotische Herde を認め、此部に出血存在す。小葉内毛細管の内皮細胞增殖し、淋巴樣細胞の浸潤ありて管腔（竇狀に擴張せるもの）を充塞せるものも認めらる。間質に淋巴樣細胞の集積認めらる。

腎：細尿管上皮溷濁腫脹し、殊に曲細尿管上皮の崩壞せるもの少からず。間質に淋巴樣細胞の集團せるもの多數に存在す。毛細管出血竈を皮質に認む。絲毬體の出血せるものも少數あり。

脾：大いに血液にこみ、固有組織僅に認め得らるるのみ。nekrobiotische Herde 少數に存在す。淋巴濾胞は殆ど認むべからず。

淋巴腺：出血、充血、浮腫著明にして固有組織（種子中心）僅に認めらる。nekrobiotische Herde 少數に存在す。

第17例　バークシヤー雜種　牝　生後4箇月　臺南州虎尾郡　劉江所有

十一月二十日少しく削瘠、元氣食慾旺盛ならず。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺：著明の變狀なし。心は室壁頗る薄く軟化す。心嚢水多量なり。肝は少しく溷濁す。脾少しく血液に富む。腎溷濁强し、腸は盲腸に1箇の指頭大潰瘍あり。

淋巴腺：各部の淋巴腺少しく腫大す。胃淋巴腺及胸口淋巴腺腫大し、赤色を呈し、出血す。内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞萎縮す。小葉内毛細管内に結節狀に且間質にも少しく淋巴樣細胞の集積あり。

腎：皮質の間質に淋巴樣細胞の集積あり。曲細尿管上皮輕度に溷濁腫脹す。淋巴濾胞殆んど

認むべからず。

脾：Hülsenarterie の莢組織増殖し極めて著明に認めらる。莢組織中には多數の壞死細胞存在す。

淋巴腺：一般に充血あるの外著しき變狀を認めず。

第18例　バークシヤー雜種　牝　生後4箇月　同上所有

十一月二十日營養中等、元氣に乏し。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝に少數の出血斑あり。腎は出血點を少數に示す。脾少しく腫大し血液に富む。腸：大腸に出血點多數に存在す。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、赤色を呈し、出血するものも認めらる。

内臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血あり。小葉内毛細管内に淋巴樣細胞小結節狀に集積す。間質にも輕度の圓細胞の浸潤存在す。

腎：曲竝に直細尿管上皮の混濁腫脹あり。絲毬體附近に僅微の淋巴樣細胞の集積あり。

脾：淋巴濾胞及其周圍血液に富む。浮腫著しく、細胞鬱粗なり。

淋巴腺：淋巴竇著しく擴張し、實質には網狀纖細胞增殖し、實質細胞鬱粗なり。

第19例　バークシヤー雜種　奄豚　生後10箇月　臺南州北門郡　許佳興所有

十一月二十日發病。二十二日少しく倒痛し、元氣なく、便秘す。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は兩肺ミも前中葉の全部及後葉の大部赤色肝變に陷る。心の室壁薄く且柔軟なり。肝混濁强度なり。腎は混濁强度にして皮質部に出血點多し。脾少しく腫大し血液にミむ。胃血斑少數に存在す。胃の腺部充血し、出血點を示す。小腸は充血し少數の出血點存在す。盲腸粘膜充血し、出血點多く且10數箇の潰瘍（徑1cm）を示す。結腸及直腸粘膜は殆ど全部にヂフテリー性僞膜を蒙る。

淋巴腺：各部の淋巴腺著明に腫大し出血高度なり。

内臟の細菌培養に於て肺の肝變部より化膿性桿菌發育す。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞萎縮し核の Pyknose を呈するもの多數に存す。小葉内毛細管及中心靜脈周圍竝に間質に淋巴樣細胞の集積著明なり。尙小葉内 nekrobiotische Herde 極少數に認めらる。

腎：皮質に毛細管出血點々と存在す。細尿管の少數に赤血球及血色素塊の充滿するを見る。曲細尿管上皮混濁腫脹す。且つ崩壞せるもの少數に認めらる。間質に淋巴樣細胞の集積夥多なり。殊に絲毬體附近及細小動靜脈周圍に著明なり。

脾：大いに血液に富む。淋巴濾胞全く認むること能はず。髓質中に nekrobiotische Herde 多數に存在し、Hülsenarterie の莢組織血液に富み其細胞の壞死するもの殆ど全部なり。

淋巴腺：出血、充血著明なり。毛細管壁著しく肥大す。

第20例　バークシヤー雜種　牝　生後6箇月　臺南州北門郡　許樹所有

十一月八日發病す。二十二日少しく削瘠し、元氣なし。皮膚は剝離落屑せる表皮に被はる。之を除けば白き表皮を認む。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、心、肝、腎、脾、胃、小腸に著しき變狀なし。盲腸に1箇の拇指頭大の潰瘍を認む。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、中に赤色を呈するもの少からず。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。小葉内毛細管に淋巴樣細胞の結節狀集積するもの少數散在す。小葉間質に淋巴樣細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹し其核の濃縮を呈するもの細胞質の崩壞するもの少數に存在す。

脾：Hülsenarterie の莢組織の增殖高度なり。淋巴濾胞及髓質の細胞稀鬆なり。

淋巴腺：淋巴竇に接する細胞に乏しき部分の實質に充血乃至輕度の出血あるの外著しき變狀なし。

第21例　バークシヤー雜種　竜豚　生後4箇月　臺南州北門郡　許樺所有

十月二十四日發病。十一月二十二日營養中等にして元氣良に、全く恢復せるものの如し。參考のため屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺に赤色の無氣浸潤部點々散在す。心、肝、腎、脾、胃、腸、淋巴腺等に著しき變狀を認めず。

内臓の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血ある外著しき變狀を認めず。

腎：曲細尿管上皮輕度に混濁腫脹す。

脾：髓質の細胞稀粗にして Hülsenarterie の莢組織肥厚し著明に認めらる。髓質中に Siderocyten 多し。

淋巴腺：著しき變狀を認めず。

第22例　ヨークシヤー　成豚　鹿兒島縣より臺北市に移入

昭和八年一月二十九日基隆入港、同日臺北市家畜市場に搬入、體溫41度。三十日體溫 38.9度全身皮膚潮紅し、出血斑を認む。起立不能なり。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺著しき變狀なし。心は室擴張し壁薄く軟弱なり。肝充血し多少混濁す。腎は出血點を缺く。混濁充血あり。脾腫脹す。淋巴濾胞赤色を呈す。髓質僅に塗抹するを得。小なる出血性梗塞多數に存在す。胃腺部に多數の出血斑存在す、腸：小腸著しきカタールを認め、充血あり。盲腸粘膜に少數の壞疽點存在す。結腸充血し、壞疽點及釦狀結節を少數に示す。

淋巴腺：各部の淋巴腺著明に腫大し、赤色を呈し、出血顯著なり。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血存在す。小葉内に核の濃縮を呈する星狀細胞及肝細胞或は孤立し、或は團集的に認めらる。小なる nekrobiotische Herde 少數に存在す。小葉間質に淋巴樣細胞の集積盛なり。中心靜脈壁肥大し淋巴樣細胞の浸潤著しきもの少からず。

腎：曲竝に直細尿管上皮混濁腫脹しその崩壞せるもの、核の Pyknose を呈するもの、消失せるもの少からず。間質に淋巴樣細胞の集積せるもの絲毬體の附近及細小動靜脈周圍に所々に認めらる。

脾：淋巴濾胞の大多數は之に換ふるに出血竈を以てす。少數の淋巴濾胞は nekrobiotische Herde となる。髓質には間質細胞多量なり。

淋巴腺：充血、出血、浮腫、壞疽著明にして種子中心の固有組織のみ僅に散在するに止まる。

第23例　ヨークシヤー　成豚　前例と共に鹿兒島縣より移入

一月二十九日斃死す。同三十日解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は兩肺ミも中葉赤色肝變に陷る。小血斑少數に存在す。心に著しき變狀なし。肝は血液に富む。腎は出血點多數を現はす。脾は傳染脾を呈す。腸：小腸出血點多數。盲腸には壞疽點多數に存在す。結腸には少數の指頭大釦狀結節あり。

淋巴腺：各部の淋巴腺著明に腫大し、赤色を呈するも出血敢て著しからず。

內臟の細菌培養に於て肺及脾より豚疫菌發育す。

主なる組織所見

肺：肝變部を檢するに大いに血液に富み。出血著明なり。肺小葉の全く壞死病竈ミなれるもの少からず。然らざる肺小葉の肺胞壁も多くは壞死し、肺胞內は脫落せる上皮、纖維素、圓形細胞、赤血球等を以て充さる。多數の肺胞及氣管支は豚疫菌の集落を以て充さる。

肝：鬱血あり。肝細胞溷濁腫脹す。小葉內に淋巴樣細胞の小なる集積少數に認めらる。小葉間質に淋巴樣細胞多數に浸潤す。小葉內の毛細管に菌の集落點々ミ認めらる。

腎：皮質には毛細管出血所々に存在す。曲細尿管上皮殆ミ悉く壞死し、脫落せるものも多し。直細尿管も上皮細胞核の濃縮を示すもの多く崩壞せるものも多し。皮質の細小血管の周圍及絲毬體の周圍に淋巴樣細胞の集積せるを所々に認む。

脾：大なる壞疽病竈多數に淋巴濾胞の位置を中心ミして存在す。髓質は赤血球を充たし、固有細胞を僅少に認むるもの大部分にして、然も殘存細胞も核は濃縮に陷るもの大部分なり、壞疽部に多數の豚疫菌を認む。

淋巴腺：多くは材質に沿ひて大なる壞疽病竈多數に存在し其中に菌の集落を含む。充血著明にして細小血管及毛細管著明に擴張し赤血球を充たす。出血を呈する部分多からず。

第24例　ヨークシヤー　成豚　前例と共に鹿兒島縣より移入

一月三十日體溫 40.5度三十一日41度二月一日 40.2度此日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝血液に富み、溷濁す。腎、充血し、溷濁す。脾、少しく血液に富み腫脹す。淋巴濾胞腫脹し赤色を呈す。胃底部充血、出血點少數。腸：盲腸粘膜充血高度にして漿液性浸潤をうけ腫脹す。尖端部の粘膜は出血點を密發す。結腸直腸充血し、小出血斑無數なり。

淋巴腺：各部の淋巴腺强度に腫脹し、出血著明なり。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：肝細胞核の Pyknose に陥るもの多數に存在す。nekrobiotische Herde 僅少に認めらる。

腎：充血あり。細尿管上皮は殆ど悉く混濁腫脹す。その脂肪顆粒を示すもの。崩壊せるもの多し。

脾：網狀組織の增殖あり。淋巴濾胞少數にして充血す。Hülsenarterie の血管壁壞疽に陷り、血液にさむもの夥多なり。

淋巴腺：充血あり。實質の細胞に乏しき部分に出血あり。壞疽竈や、多數なり。

第25例　バークシヤー　牝　生後4箇月　臺北市　某豚舍所有

二月十四日斃死十五日解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚に少數の出血點散在す。

肺、出血點多數、充血あり、浮腫す。心は室の擴張、壁の菲薄、軟化等を示す。胸膜に輕度の纖素性炎症あり。肝血液にさみ渾濁す。腎出血點多數あり。渾濁す。脾血液にさみ少しく腫大す。淋巴濾胞腫大し赤色を呈す。出血性梗塞1箇存在す。胃著しき變狀なし。腸：小腸、出血點少數なり。カタール著明なり。大腸、充血し、出血點多數なり。結腸粘膜には多數の潰瘍存在す。

淋巴腺：各部の淋巴腺著しく腫大し且出血著し。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血極めて著し。肝細胞著しく萎縮し、消失せる部分あり。小葉の邊緣部の肝細胞壞死せるもの少からず。小なる壞疽性結節少數に認めらる。

腎：充血高度なり。毛細管出血も著明なり。曲細尿管上皮殆ど悉く壞死す。

脾：髓質少しく血液にさむ。Hülsenarterie 殆ど全く壞疽に陷り、出血す。淋巴濾胞及其周圍の出血せるもの多し。

淋巴腺：細胞著しく粗粗なり。充血、出血あり。

第26例　ヨークシヤー　成豚　第23例と共に鹿兒島縣より移入

二月十五日榮養中等元氣稍々振はず。移入以來發熱を認めず。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺充血高度にして、浮腫又高度なり。心は室の擴張を示す。肝多數の出血點を示し、溷濁す。腎出血點なく、充血す。脾血液にこみ少數の出血性梗塞あり。腸カタール高度なり。盲腸に出血點多し。

淋巴腺：各部の淋巴腺高度に腫大し、赤色にして出血著し。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。浮腫著し。肝細胞は悉く萎縮し、空胞形成をなす。

腎：大いに充血す。曲細尿管の變性著しく、空胞形成せるもの、核の Pyknose を呈するもの崩壞脫落せるもの多し。直細尿管上皮も之こ同樣の變化を呈するもの多し。

脾：髓質大いに血液に富み、固有組織を殆ご認めず。但壞疽に陷れる固有組織結節狀をなし所々に存在す。淋巴濾胞及其周圍に散在せる Hülsenarterie（壁は肥大し壞疽に陷る）島嶼狀に散在す。

淋巴腺：充血出血著明にして固有組織細胞粗なり。

第27例　バークシヤー　成豚　前例と共に鹿兒島縣より移入

二月十五日斃死解剖。移入以來發熱を認めざるものなり。

主なる解剖所見

肺、充血浮腫高度なり。心室、擴張し、心筋、軟弱なり。肝溷濁し血液にこむ。腎充血し、溷濁す。脾血液にこみ腫大す。腸：小腸カタール高度なり。盲腸出血點少數、ヂフテリー性結節少數存在す。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、赤色を呈す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞殆ご悉く空胞形成し、脂肪染色により脂肪顆粒の證明せらるゝもの大多數なり。小葉の中心部廣く肝細胞壞死し、融解す。少數の小葉には大なる壞疽性結節存在す。

腎：曲細尿管上皮の變性著しく、殆ご大部分の細胞核は Pyknose に陷り、空胞形成著明にして上皮の崩壞せる細尿管少からず。

脾：髓質大いに血液に富む。淋巴濾胞の細胞頗る粗なり。

淋巴腺：充血し細胞の粗なるもの多し

第28例　バークシヤー　成豚　前例と共に鹿兒島縣より移入

二月十五日斃死解剖。移入以來發熱を認めざりしものなり。

肺充血浮腫頗る高度にして氣管、氣管支は氣泡を含む漿液を以て充さる。心室の擴張あり、心筋軟化す。肝溷濁し血液に富む。腎溷濁高度血液に富む。脾血液にさみ腫大す。腸カタール高度にして充血あり。出血點少數に散在す。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し赤色を呈す。

內臟の細菌培養に於て種々の腐敗菌の發育を見たるも病原性菌の發育陰性なり。

內臟の腐敗著しき爲組織の變狀明ならず。

第29例　バークシヤー　成豚　前例と共に鹿兒島縣より移入

二月十五日斃死、解剖。移入以來發熱を認めざりしものなり。

肺、著しき變狀なし。心室の擴張あり。肝、多數の蛔蟲寄生す。膽囊は蛔蟲に充塞せらる。腎、充血し溷濁す。脾、血液に富み、多數の出血性梗塞あり。腸は全體に亘り出血點散在す。盲腸及結腸粘膜に瘢痕による白斑多數なり。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大、潮紅、出血あり。

內臟の細菌培養に於て病原菌の發育を認めず。

臟器の腐敗著明なる爲組織變狀明ならず。

第30例　バークシヤー　牝　生後2箇月　臺北市　某豚舍所有

三月十七日斃死同十八日解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、充血高度なり。心著しき變狀なし。肝、溷濁し、少しく血液に富み腫脹す。腎、充血し、溷濁す。脾、腫大し、血液に富む。胃、腺部に出血斑存在す。腸：小腸全部に亘り充血高度にして出血す。大腸、充血し、出血點多發す。淋巴腺、各部の淋巴腺腫大し、出血す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血頗る高度にして小葉內の毛細管竇狀に擴張す。殊に小葉中心部に甚し、肝細胞著しく萎縮し、脂肪變性に陷るもの極めて多し。其他殊に中心部に於て肝細胞の壞疽に陷るもの多數に存在す。かゝる壞疽肝細胞集りて結節狀を呈するものも存在す。

腎：曲細尿管上皮の水腫性變性極めて著明にして殆ど悉く其核は Pyknose に陷るか又は消失す。

脾：大いに血液に富み、出血竈を少數に認む。淋巴濾胞は多くは消失し、少數に認めらるゝものも高度に萎縮す。

淋巴腺：充血浮腫著明なり。出血竈も認めらる。

第31例　バークシヤー　牝　生後1箇月　同上所有

三月二十三日瀕死のものを屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、著しき變狀なし。心、室の擴張、心筋の渾濁軟化あり。肝、渾濁輕度の腫脹あり。腎、渾濁强し。脾、やゝ血液に富む。胃、腺部粘膜に出血點を認む。腸、一樣に高度のカタールあり。淋巴腺、各部の淋巴腺腫大し、赤色を呈するもの少からず。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉內毛細管に少しく鬱血あり。

腎：曲細尿管上皮殆ど悉く渾濁腫脹に陷る。

脾：髓質に血液少しく多量なり。

淋巴腺：少しく充血あり。出血竈も認めらる。種子中心の周圍にエオジン嗜好性白血球の集積あり。

第32例　バークシヤー　牝　生後2箇月　同上所有

四月三日發病、體溫41度、元氣食慾なし。便秘す。

同五日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、多數の出血性梗塞あり。後葉に Cysticercus の寄生少數あり。心臟に著しき變狀なし。肝、出血點多數あり。肝表面に Cysticercus の寄生極めて著しく、腹水の瀦溜夥し。腎、皮質の渾濁著し。脾、著しき變狀なし。腸、充血高度なり。盲腸尖端部粘膜充血腫脹し、出血點多發す。淋巴腺、胸腹腔內淋巴腺腫大潮紅す。皮下淋巴腺少しく腫脹するも赤色を呈せず。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肺：出血性梗塞の部を按するに此部の組織全部壞死し肺胞壁は崩壞し內腔は血液を充滿す。

肝：小葉間質やゝ多量にして細胞にとみ、淋巴樣細胞の集積もやゝ著し。所々に Cysticercus の包囊を中心として圓形細胞の集積する結節散在す。結節の周緣部にはエオジン嗜存性白血球夥多なり。該結節のため周圍の肝細胞萎縮消失し、之に近接する小葉は著しく萎縮す。

小葉の全部又は大部出血巣となり、肝細胞全く消失し又は崩壊せる核のみを遺殘するもの多數に存在す。其他 Pyknose に陷れる肝細胞點々として散在し、小なる nekrobiotische Herde や、多數に認めらる。

腎：皮質部少しく血液に富む。實狀に擴張せる毛細管や、多數なり。曲細尿管内に血色素を認むるもの少からず。曲細尿管上皮の大部分は蛋白樣變性又は脂肪變性を呈す。

淋巴腺：内臟淋巴腺の周緣部大いに充血し、出血を呈す實質細胞の集團粗粗なり。

第33例 バークシヤー 牝 生後4箇月 同上所有

四月三日發病。四日體溫 40.1度。五日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、無數の小出血點あり。心、著しき變狀なし。

肝、腎、脾に著しき變狀なし。胃、幽門部に充血出血點あり。腸、小腸には出血點散在す。大腸、盲腸尖端部充血し、出血斑あり。淋巴腺、内臟淋巴腺腫大し赤色を呈す。皮下淋巴腺腫大せず。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：少しく鬱血あり。壞死せる肝細胞點々認めらる。小葉内に小なる nekrobiotische Herde を認むるもの夥多なり。小葉の大部分を占むる nekrobiotische Herde も存在す。小葉間質に淋巴樣細胞集積す。

腎：充血あり。曲細尿管上皮混濁腫脹す。又其壞死せるもの多數なり。

脾：淋巴濾胞の周圍に充血あり。Hülsenarterie の莢組織肥厚す。壞死結節少數に存す。

淋巴腺：固有組織殆ど認められず。間質の增殖著しく、血液にじみ、輕度の出血を認む。小なる nekrobiotische Herde 多數に認めらるゝものあり。又は少數の種子中心を除き他は悉く壞死巣となれるものも存在す。

第34例 バークシヤー 牡 生後3箇月 同上所有

五月一日發病。四日斃死。卽日解剖。

主なる解剖所見

肺、出血點多數。心、著しき變狀なし。肝、小葉間質の增殖著しく、硬固なり。輸膽管に蛔蟲梗塞す。腎、充血し、混濁あり。脾、少しく腫脹し、血液に富む。壞疽點散在す。胃、腺部

及幽門部充血し、出血あり。腸、小腸粘膜の所々に壞疽點を認む。大腸粘膜充血し、出血斑を示し、壞疽點散在す。淋巴腺、各部の淋巴腺腫脹し、浮腫に陷るか又は出血を示す。

内臟の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。nekrobiotische Herde 多數に存在す。

腎：曲細尿管上皮の混濁腫脹著し。核の消失せるもの、濃縮を呈するもの夥し。

脾：髓質少しく血液に富む。nekrobiotische Herde 多數に存在し、多くは髓質中に存在するも淋巴濾胞を侵すものも少からず。

淋巴腺：細胞粗粗なり。nekrobiotische Herde 多數に認めらる。

第35例　バークシヤー　牝　生後3箇月　同上所有

五月一日發病。四日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺及心に著しき變狀なし。肝混濁す。腎には2箇の點狀出血あり。混濁す。脾は少しく血液に富み、腫大す。少數の出血性梗塞存在す。胃の腺部には古き出血點多數に存在す。小腸には著明の變狀なし。大腸充血し、カタール認めらる。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し。赤血を呈するもの多し。出血を認むるもの少からず。

内臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞の蛋白樣變性著しく、空胞形成をなすもの少からず。脂肪染色に於て陽性を示すもの多數なり。小葉内に nekrobiotische Herde 多少に存在す。尙小葉内毛細管に巨態細胞多數に散見す。小葉間質に淋巴樣細胞の集積多量なり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹す。

脾：髓質殊に淋巴濾胞の周圍血液に富む。少數の nekrobiotische Herde 髓質中に少數に認めらる。Hülsenarterie の壁肥厚し、血液に富み、細胞核全く濃縮に陷る。

淋巴腺：充血あり。間質の增殖著しく、毛細管壁肥厚し、且巨態細胞多數に存在し、壞疽病竈も多數に認めらる。實質細胞粗粗なり。

第36例　バークシヤー　牝　生後3箇月　同上所有

五月一日發病。同二日體溫 41.7度。同四日 40.2度。同五日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺充血し、出血性梗塞あり。小なる無氣浸潤部多數あり。心には著しき變狀なし。

肝溷濁す。腎溷濁し、出血點多數に存在す。脾血液に富み少しく腫大す。胃の噴門部粘膜に壞疽點少數に存在す。小腸に著しき變狀なし。盲腸及結腸に小鈕狀結節密發し、結節の周圍潮紅す。壁著しく腫脹す。直腸、小鈕狀結節散在す。

淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、赤色を呈し、出血を呈するもの多し。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：肝細胞の大部分著明に空胞形成をなす。脂肪染色に着色せず。尙又 Pyknose を呈する核點々ゝ認めらる。小葉內に小なる淋巴樣細胞に富める nekrobiotische Herde 點々ゝ散在す。小葉內毛細管內に淋巴樣細胞多數に存在し、集積して結節狀をなすものあり。かゝる結節の大なるものゝ周圍の肝細胞壞死し、壞疽性結節に移行するものあり。小葉間質にも淋巴樣細胞の集積著し。

腎：曲細尿管上皮溷濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞に出血を認む。其周圍は血液に富む。髓質細胞粗大なり。

淋巴腺：實質の細胞に乏しき部分血液に富み。出血も著し。廣く壞死せる部分散在す。

第37例　バークシヤー　牡　生後3箇月　同上所有

五月一日發病。二日體溫 39.8度。五日體溫 39.4度。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心著しき變狀なし。肝：輸膽管に蛔蟲多數栓塞す。腎少しく溷濁す。脾少しく血液に富む。胃腺部出血斑を示し、噴門部に壞死點存在す。腸：大腸は全部に亘りヂフテリー性義膜を被る。淋巴腺腫大し、赤色を呈するもの多し。

臟器の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞の壞死せるもの散在し殊に小葉の邊緣に多し。小葉內に nekrobiotische Herde 少數に存在す。葉間輸膽管は膿球を充滿す。

腎：曲細尿管上皮溷濁腫脹し、其壞死せるもの點々認めらる。間質に淋巴樣細胞の集積僅に存在す。

脾：間質細胞の增殖著し。淋巴濾胞の周圍に僅に充血あり。Hülsenarterie 壁著しく肥大す。

淋巴腺：間質の増殖著しく、毛細管充血し、壁肥大す。上皮樣細胞集積して結節狀をなすもの多く且其中心部に壞疽部を有するもの少からず。かゝる結節の少數には多核白血球の浸潤せるものあり。固有組織著しく萎縮す。

第38例　バークシヤー　牡　生後3箇月　同上所有

五月一日發病。二日體溫41.8度。六日41.3度。榮養良にして食慾あり。元氣も尙良なり。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺：充血あり。小なる無氣浸潤部少數存在す。心には著しき變狀なし。肝は充血混濁强度なり。表面に纖維素附着す。腎には小出血點少數に存在す。脾：小出血點多數に存在す。小腸に蠕蟲10數箇存在す。淋巴腺腫大す。赤色を呈するもの少からず。

臟器の細菌培養は陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血著し。肝細胞悉く脂肪變性に陷る。肝細胞核の Pyknose を呈するもの點々と散在す。nekrobiotische Herde 多數に認められ且之に淋巴樣細胞の浸潤あり。小葉間質にも淋巴樣細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮混濁浮腫す。其核の濃縮を呈するもの多し。

脾：髓質及淋巴濾胞共に細胞に粗なり。淋巴濾胞の周圍に充血又は出血あり。Hülsenarterie 壁著しく肥厚す。

淋巴腺：實質細胞粗鬆にして、少しく充血あり。結節の周緣に出血を呈するものも存在す。

第39例　バークシヤー　牡　生後3箇月　同上所有

五月一日發病。六日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺：充血著しく、出血點散在す、心著しき變狀なし。肝：混濁著明。腎：混濁し、出血點も多數なり。脾：少しく腫脹し、血液に富む。腸：大腸全體に亘り、治癒に向へる潰瘍多數あり。其周圍に充血存在す。淋巴腺：腫大し赤色を呈するもの少からず。殊に腸間膜淋巴腺は腫脹、潮紅著しく壞疽に陷るものも認めらる。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血極めて著し。肝細胞萎縮し、小葉中心部の細胞消失せるもの少からず。nekrobiotische Herde 稍々多數に認めらる。小葉間質及小葉内に淋巴樣細胞の集積あり。

腎：充血あり。毛細管出血存在す。曲細尿管上皮混濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞の周圍に充血乃至出血あり。淋巴濾胞全く出血竈となるものあり。

淋巴腺：充血あり。間質の增殖著明なり。nekrobiotische Herde 多數に存在するもの多し。

第40例　バークシヤー　牝　生後2箇月　同上所有

五月一日發病。衰弱下痢す。歩行蹌踉たり。八日斃死す。直に解剖に附す。

主なる解剖所見

肺：兩肺共前中葉の全部後葉の大部分赤色肝變を呈す。心：室の擴張あり。肝、腎、脾共に混濁著し。腸：大腸に點狀乃至指頭大潰瘍無數に存在す。出血點少數なり。殊に盲腸は大なる潰瘍に被はる。淋巴腺：腫大し、出血せるもの少からず。

内臟の細菌培養に於て肺の肝變部より多數の化膿性桿菌發育す。

主なる組織所見

肺：肝變部の組織を檢するに相當の充血あり。肺胞内及細氣管支内には圓形細胞及無構造の蛋白質を充たす。

肝：鬱血や、著明なり。肝細胞の空胞形成するもの多く、又核の Pyknose を呈するもの少からず。各小葉内には1－10箇の小なる nekrobiotische Herde 存在す。小葉間質に淋巴樣細胞の集積認めらる。

腎：細尿管の上皮混濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞を認めず。僅に痕跡と認むべきもの少數に存在す。少しく血液にごみ、髓質萎縮し、Hülsenarterie の肥大せる塁著明に認めらる。髓質中に小なる壞疽性結節點々認めらる。

淋巴腺：充血す。大部分廣く壞疽に陷るもの少からず。

第41例　バークシヤー　牝　生後2箇月（第39例と同腹）同上所有

五月八日體溫39.6度、榮養不良なり。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺：出血點多發す。心：著しき變狀なし。

肝、腎、脾、胃に著しき變狀なし。腸：小腸に小なる潰瘍あり。大腸に多數の陳舊なる瘢痕となりつゝある潰瘍あり。淋巴腺：各淋巴腺浮腫す。赤色を呈するもの多し。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。肝細胞悉く脂肪變性に陷る。nekrobiotische Herde 多數に存在す。小葉間質に淋巴樣細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹す。絲毬體附近に淋巴樣細胞の集積僅に存す。

脾：淋巴濾胞細小なり。髓質やゝ血液に富む。Hülsenarterie 壁著しく肥厚す。

淋巴腺：壞疽著明にして淋巴腺の固有組織僅に認めらる。

第42例　バークシヤー　牡　生後2箇月（第39例と同腹）同上所有

五月八日體溫39度、榮養不良なり。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺：兩肺ミも前及中葉の全部後葉の一部赤色肝變す。輕き纖素性の肋膜炎あり。肝、腎、脾に著しき變狀なし。胃：噴門部に壞疽點存在す。腸：小腸にやゝ多數の小壞疽竈あり。大腸殊に盲結腸は殆ど全部米粒大—大豆大の潰瘍を密發するも直腸にはやゝ少し。淋巴腺：各淋巴腺浮腫す。赤色を呈するもの多し。

内臓の細菌培養に於て肺の肝變部より化膿性桿菌多數に發育す。

主なる組織所見

肺：肝變部を檢するに血液に富み、毛細管は赤血球を充たす。肺胞には其内に落屑せる上皮ミ無構造の蛋白質を容るゝもの、圓形細胞を充たすもの及此兩者の混合せるもの等あれども其充滿の程度緊密ならずして相當の空隙を殘すもの少からず。又多數の肺胞壞死し無構造ミなり崩壞せる核を其中に點々ミして現はすに過ぎざる部分も存在す。氣管支内には多量の圓形細胞の集積あり。かゝる圓形細胞は多核白血球を混ずることミ少數なり。

肝：鬱血少しく存在す。肝細胞の核の Pyknose を呈するもの點々ミ存在す。小葉内に nekrobiotische Herde 多數に存在し、大多數のものは小なれども、大なるものは小葉の大部を冒すものあり。小葉間質には淋巴樣細胞の集積著しく且やゝ多數の Eosinophil も浸潤す。

腎：曲細尿管の上皮蛋白樣變性に陷る。

脾：髓質少しく血液に富む。淋巴濾胞多くは消失し、少數の萎縮せるものを止むるに過ぎず。Hülsenarterie 著しく肥大し、壁の細胞に壞死せるもの多し。

淋巴腺：大部分 nekrobiotische Herde ミなり、固有組織ミかゝる Herde ミ相交雜す。

第43例　バークシヤー　牡　生後2箇月　同上所有

五月九日體溫 39.4度。全身狀態に著しき變狀を認めず。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心、肝、腎、脾に著しき變狀を認めず。結腸に數箇の小なる潰瘍あるの外胃腸に變狀なし。

淋巴腺：浮腫し、赤色を呈するもの少からず。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞脂肪變性を示す。少數の nekrobiotische Herde を認む。

腎：曲細尿管上皮輕度に混濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞の周圍に少しく充血あり。Hülsenarterie 大いに肥厚し著明に認めらる。

淋巴腺：細胞粗鬆なり。間質の增殖著し。

第44例　バークシヤー　牡　生後2箇月（第40例と同腹）同上所有

五月一日發病。九日體溫 40.3度。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺に充血あり。無氣浸潤部1箇存在す。心に著しき變狀なし。肝は混濁高度なり。腎混濁し出血點2箇存す。脾腫大し、血液に富む。腸：小腸に多數の蛔蟲寄生す。結膜に治癒しつゝある潰瘍多數に存在す。淋巴腺：各部の淋巴腺浮腫し、赤色を呈するものも多し。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血あり。肝細胞蛋白樣變性に陷る。少數の肝小葉に nekrobiotische Herde を認む。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞並に髓質著しく萎縮す。Hülsenarterie の壁著しく厚し。

淋巴腺：固有組織細胞粗鬆なり。結締織の增殖盛なり。

第45例　バークシヤー　牡　生後2箇月（第40例と同腹）同上所有

五月一日發病。九日體溫 39.3度、全身狀態に著しき變狀なし。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心、肝、脾：著しき變狀なし。腎：6 箇の出血點を示す。胃腸：著しき變狀なし。淋巴

腺：各部の淋巴腺浮腫し、赤色を呈するもの少からず。

内臓の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血存在す。小葉内の所々に小なる nekrobiotische Herde 及淋巴様細胞の小なる集團や、多數に認めらる。肝細胞中核の Pyknose を呈せるもの少からず。小葉間質にも淋巴様細胞の集積僅に存す。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹す。

脾：Hülsenarterie 肥大し極めて著明に認めらる。その他大なる變狀を認めず。

淋巴腺：充血あり。浮腫特に著明なり。少數の淋巴腺に出血認めらる。

第46例　バークシヤー　牡　生後5箇月　同上所有

五月十六日發病。十八日體溫 41.6度、榮養尚良なれども元氣なし。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺：出血點多發す。心、肝、腎、脾：著しき變狀なし。胃：腺部粘膜充血し、出血點を多發す。腸：大腸に出血點多發す。淋巴腺：多數淋巴腺浮腫す。赤色を呈するもの少し。

内臓の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肺：少しく血液に富む。肺胞の乱軍に陷るものや、多く、上皮の落屑せるものも存在す。

肝：肝細胞の混濁腫脹脂肪變性著し。小葉内に大小種々の nekrobiotische Herde 多數なり。小葉間質に淋巴様細胞の集積著明なり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹及脂肪變性に陷る。核の Pyknose を呈するもの多し。

脾：髓質や、血液に富む。殊に淋巴濾胞の周圍に著し。髓質の所々に小なる nekrobiotische Herde 存在す。

淋巴腺：實質の細胞に乏しき部分少しく血液に富む。胃淋巴腺は nekrobiotische Herde を多數に現はす。

第47例　バークシヤー　牡　生後5箇月　同上所有

五月十六日發病。十八日 41.9度、榮養良なれども元氣なし。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺に浮腫あり。心に著しき變狀なし。肝：腫脹著しく、高度に混濁す。腎：混濁、出血點散

在す。脾：出血性梗塞多數なり。胃：大彎部充血し出血點を發生す。腸：大腸に出血點散在す。淋巴腺：內臟淋巴腺著しく腫大し、多くは赤色を呈す。皮下淋巴腺は浮腫す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、著し。肝細胞の蛋白樣變性高度なり。nekrobiotische Herde の形成著明にして各小葉に數箇を認む。小葉間質淋巴樣細胞に富む。

腎：皮質毛細管血液に富む。毛細管出血存在す。曲細尿管上皮の溷濁腫脹著明にして、核の濃縮せるもの多數に存在す。

脾：淋巴濾胞の周圍に充血著し、髓質は細胞稀粗なり。

淋巴腺：充血及出血あり。間質細胞の增殖著しく、實質萎縮消失す。大小の壞死竈多數に存在す。

第48例　バークシヤー　牝　生後4箇月　臺北州文山郡　新店養豚所所有

八月五日發病。發咳及下痢あり。九日斃死、解剖に附す。

主なる解剖所見

肺：兩肺充血し、廣く肝變に陷り、壞疽著明なり。心：室の擴張著しく、壁薄し。胸膜：纖素性漿液性炎症あり。肝、腎、脾：腐敗著しく變狀明ならず。胃及小腸：著しき變狀なし。盲腸：Diphtherie 性釦狀結節多數あり。出血點少數なり。淋巴腺：紅腫す。

內臟の細菌培養に於て肺の壞疽部より多數の豚コレラ菌發育す。

主なる組織所見

腐敗著しき爲鏡檢に適せず。

第49例　バークシヤー雜種　牝　生後4箇月　臺北州七星郡　宋德銓所有

九月十八日發病。二十七日體溫 40.1度、削瘠强度ならず。元氣なく、步行踉蹌たり。二十八日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺：右肺の後葉の大部赤色肝變に陷る。心：擴張あり。肝：血液に富む。表面に化膿點存在す。腎：皮質部溷濁し血斑少數なり。脾に出血性梗塞多し。腸：盲腸に3箇の釦狀結節あり。淋巴腺：胸、腹腔內淋巴腺紅腫す。皮下淋巴腺浮腫す。

內臟の細菌培養に於て肺の病竈より一種の大腸菌多數に發育す。

主なる組織所見

肺：肝變部を檢査するに充血あり。肺胞内に圓形細胞の集積又は漿液の充滿と落屑上皮を認む。氣管支内に膿球を充滿す。

肝：鬱血少しく存在す。肝細胞混濁腫脹す。白膜下に化膿性結節あり。星狀細胞の Haemosiderin 沈著著し。

腎：曲細尿管の上皮混濁腫脹著明にして、大多數の核 Pyknose に陷る。

脾：髓質、血液に富む。殊に淋巴濾胞の周圍に著明なり。髓質中に Siderocyten 多數なり。

淋巴腺：實質の細胞に乏しき部分に充血著し。

第50例　バークシヤー雜種　牝豚　生後6箇月　臺北州宜蘭郡　呂阿旺所有

十月二十九日より食慾廢絶す。三十一日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝血液に富み混濁。腎充血す。脾少しく腫大す。結腸に壞死竈少數に散在す。淋巴腺：腫大し、出血を示す。内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血やゝ著明なり。肝細胞大に混濁腫脹す。

腎：曲細尿管上皮の混濁腫脹著明なり。皮質の間質に淋巴樣細胞の集積認めらる。

脾：髓質の細胞粗鬆なり。淋巴濾胞周圍に充血著し。

淋巴腺：周緣に出血高度なり。間質の增殖著しく、實質萎縮消失す。種子中心の壞疽に陷るものあり。大いに充血し浮腫す。

第51例　バークシヤー　牝豚　生後7箇月　臺北州文山郡　木柵農業補習學校所有

十一月二十八日發病。體溫40.8度。十二月二十六日斃死。二十七日解剖。

主なる解剖所見

肺：兩肺とも前及中葉の全部及後葉の1/3は赤色肝變を呈し、多數の壞死病竈認めらる。兩肺とも纖素性胸膜炎のため胸壁に附着す。心には著しき變狀なし。肝に少數の出血斑あり。腎はやゝ著しく混濁す。脾に少數の出血性梗塞あり。腸：盲腸、結腸に陳舊なる指頭大の劍狀結節少數あり。結腸と直腸の移行部に廣く粘膜の壞死部あり。此部の腸間膜充血浮腫す。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大するも、充血するもの少く、出血を呈するもの稀なり。

內臟の細菌培養に於て肺の病竈より多數の大腸菌發育す。

主なる組織所見

肺：脾變部の切充標本を檢するに充血著しく、大多數の肺胞は泡沫を有する無構造の蛋白を以て充され、落屑上皮を混ず。壞死細胞を充せる肺胞集團的に所々に存在し、氣管支も亦かゝる壞死細胞を以て滿さる。肺胞內に纖維素の析出著明ならず。

肝：鬱血變度なり。肝細胞著しく萎縮す。殊に小葉中心部に著明なり。小葉の周緣部の肝細胞は腫大し、圓形を呈す。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹著しく、核の Pyknose に陷るもの夥し。

脾：淋巴濾胞の多數 nekrobiotische Herde となり。其周圍に充血著し。髓質中には間質細胞著しく多量なり。

淋巴腺：漿液の浸潤をうけたる粗粗なる間質の間に實質組織島嶼狀に存在す。

第52例　バークシヤー　牡　生後4箇月　臺北市　某豚舍所有

昭和九年三月十九日發病。食慾不振なり。體溫 39.3度。二十日41.3度。二十二日體溫41.6度。二十三日體溫 39.5度。榮養中等度、元氣なく、食慾不振なり。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は出血點多數。心に擴張あり。肝に出血點少數あり。腎にも出血點少數あり。脾には多數の出血性梗塞あり。腸：小腸に數十の蛔蟲寄生す。盲腸及結腸粘膜に少數の壞疽點存在す。淋巴腺：各部の淋巴腺腫大し、浮腫又は赤色を呈す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：各小葉內には多數の nekrobiotische Herde あり。其他壞死に陷れる肝細胞點々と存在す。肝細胞の脂肪變性を呈するもの多く殊に nekrobiotische Herde の周圍に於て然り。間質細胞に富み、淋巴樣細胞多數に存在す。

腎：皮質の毛細管、赤血球を充滿す。曲細尿管上皮は著しく蛋白樣變性に陷る。

脾：淋巴濾胞には充血乃至出血あり。髓質中には小なる nekrobiotische Herde 點々と散在す。

淋巴腺：殆ど大部分壞疽に陷る。

第53例　バークシヤー　牡　生後6箇月　同上所有

三月二十二日發病。二十三日體溫 41.5度。二十四日體溫 40.6度。榮養良なり。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝は表面に纖素を附著す。結締織の增殖著しく、肝組織硬固なり。

腎に混濁あり。尿嚢腫多數なり。脾に出血性梗塞多數に存在す。盲腸及結腸粘膜には充血强度にして出血斑多く且壞疽點多し。淋巴腺：一般に腫大す。單に浮腫するか又は赤色を呈し、出血を示す。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血少しく存在す。小葉內に多數の大小種々なる nekrobiotische Herde あり。肝細胞腫大し、蛋白樣變性に陷る。壞死肝細胞點々と散在す。小葉間質細胞に富み、淋巴樣細胞、Eosinophil の浸潤あり。

腎：皮質部血液に富む。曲細尿管上皮輕度に混濁腫脹す。

脾：淋巴濾胞充血乃至出血す。髓質內に nekrobiotische Herde 點々と散在す。

淋巴腺：充血及出血あり。小なる nekrobiotische Herde 實質中に多數に認められる。

第51例　バークシヤー　牝　生後6箇月　同上所有

三月二十八日發病。體溫 41.0度。二十九日 38.8度。三十日 40.5度。三十一日 40.5度。榮養良なり。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝は血液に富む。脾少しく腫大し、出血性梗塞少數あり。盲腸及結腸に淋巴濾胞の腫脹及釦狀結節少數存在す。淋巴腺：一般に腫大す。內臟淋巴腺は赤色を呈し、皮下のものは單に浮腫す。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、高度なり。小葉內に多數の小なる nekrobiotische Herde 存在す。肝細胞の空胞形成盛なり。間質に淋巴樣細胞の集積や、著し。

腎：毛細管や、血液に富む。細尿管の上皮混濁腫脹し、崩壞剝離せるもの多く、核の Pyknose を呈するもの夥し。

脾：淋巴濾胞充血し、多くのものは出血竈となる。

淋巴腺：少しく血液に富む。實質の細胞に乏しき部の毛細管壁肥大し、血液を充たす。間質

に漿液浸潤あり。

第55例　バークシヤー　牡　生後4箇月　同上所有

四月二日發病。體溫 41.5度。食慾なく下痢す。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝：結締織の增殖著しく硬固にして表面に纖素を附着す。血液に富む。腎は混濁す。尿囊腫多數、白き瘢痕多數なり。脾は少しく腫脹し、出血性梗塞存在す。腸：大腸充血し、淋巴濾胞の腫脹あり。小なる潰瘍少數に存在す。淋巴腺：一般に腫大す。內臟淋巴腺は赤色を呈す。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血やゝ著明なり。小葉內の nekrobiotische Herde やゝ大にして多數に存在す。殆ど全肝細胞脂肪變性に陷る。核の Pyknose を呈するもの多し。

腎：少しく血液に富む。曲細尿管の上皮蛋白樣變性に陷る。

脾：淋巴濾胞の周圍に充血あり。髓質內に nekrobiotische Herde 點々と散在す。Hülsenarterie も其壁の細胞多數に壞死す。

淋巴腺：大小種々なる nekrobiotische Herde 極めて多數なり。其著明なるものにては殆ど全淋巴腺壞死するものあり。

第56例　バークシヤー　牡　生後4箇月　同上所有

四月二日發病。體溫 41.1度。三日 40.3度。四日 40.3度。五日 39.5度。榮養良好、食慾不振ならず。屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心に著しき變狀なし。肝：結締織の增殖ありて硬固なり。表面に纖素を附着す。脾に出血性梗塞多數に存在す。大腸に潰瘍存在す。粘膜廣く壞疽に陷る。淋巴腺は一般に腫大す。內臟淋巴腺赤色を呈す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血やゝ著明なり。小葉內の nekrobiotische Herde 大小種々ありてやゝ夥多なり。空胞を形成する肝細胞多し。小葉間質細胞に富み淋巴樣細胞の浸潤著し。

腎：曲細尿管上皮や、著しく混濁腫脹す。

脾：髄質大いに血液に富む。淋巴濾胞は充血著し。中には固有細胞消失して赤血球と置換せられたるもの多し。

淋巴腺：充血す。毛細管肥大す。

第57例　バークシャー　牝　生後38日　臺北州文山郡　王烏龜所有

六月十一日發病。食慾なく、全身遊和の狀あり。下痢存在す。十八日斃死す。（同腹仔豚11頭あり。其内6頭は3週間前より順次斃死したり。）十九日解剖に附す。

主なる解剖所見

肺は血液に富み、浮腫高度なり。心に擴張あり。肝少しく腫脹し、血液に富む。出血斑多數なり。腎混濁高度なり。表面に粟粒大乃至小豆大の赤色の出血斑多數あり。其各中心に白色の點存在す。腎周圍の結締織著しく浮腫す。脾血液に富み出血性梗塞多數なり。胃、腸一般にカタール强く、小銅狀及壞疽性結節極めて多數なり。

胸腔及腹腔：漿液多量に存在す。腹腔内には纖素析出す。淋巴腺一般に輕度に腫脹す。多くは浮腫す。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、高度なり。小葉内に小なる nekrobiotische Herde 多數に存在す。肝細胞は殆ど悉く混濁腫脹し、核の Pyknose に陷るもの點々と存在す。間質に僅に淋巴樣細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮の壞死し、核を消失し、管腔内に無構造の一塊となれるもの多し。其他の上皮も一樣に混濁腫脹頗る高度なり。

脾：淋巴濾胞明ならず。其部位には僅少の淋巴樣細胞の集積を見るに止まる。又出血竈となれるものも認められる。髄質血液に富む。所々に血液を富有する壞疽病竈を認む。

淋巴腺：各淋巴腺殆ど大部分壞死す。

第58例　赤色豚　牡　6年　臺北市　某豚舍所有

六月十八日發病。二十五日斃死解剖。

主なる解剖所見

肺は血液に富み、浮腫著明なり。少數の出血性梗塞あり。心に擴張あり。出血點少數。肝混濁著明にして、大に血液に富む。脾少しく血液に富む。腎は著しく腫脹す。充血し、出血點少

數なり。胃腸は全部に亘り出血斑多數なり。淋巴腺は一般に著しく腫大し、赤色を帶び、出血を呈するもの多し。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。小葉內に nekrobiotische Herde 少數に認めらる。肝細胞に Haemosiderin にあらざる褐色顆塊沈著す。

腎：曲細尿管上皮の變性著しく、細胞質の崩壞するもの、管腔內に剝脫せるもの、上皮を有せざる細尿管多數なり。

脾：淋巴濾胞の周圍に血液多く、Siderocyten 多數なり。髓質中に小なる nekrobiotische Herde 少數に存在す。

淋巴腺：大に充血し、殊に淋巴竇の附近に出血も著明なり。

第59例　バークシヤー　雜種牝　生後7箇月　同上所有

六月二十二日發病。七月五日。斃死解剖。

主なる解剖所見

皮膚に少數の出血點認めらる。

肺に出血點密發す。出血性梗塞少數に存在す。心には心外膜下の出血點多數あり。室の擴張あり。肝は血液に富み、混濁著し。腎は出血點多數を示し、腎盂に凝血を充たす。脾は腫大し傳染脾を呈す。胃腸には小出血斑密發す。大腸には點狀壞疽病竈無數なり。淋巴腺は一般に腫脹し出血するもの多數なり。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。肝細胞混濁腫脹す。空胞を形成するもの夥し。間質に淋巴樣細胞の集積僅に認めらる。

腎：皮質に出血竈多數に存在す。曲細尿管上皮の變性著しく、核の Pyknose を呈するもの、上皮の管腔內に剝脫せるもの、細胞質の崩壞せるもの極めて多し、淋巴樣細胞の集積著明なる部分多數に存在し、此部の細尿管萎縮消失す。

脾：大に血液に富み固有組織として脾材の少量と淋巴濾胞を認むるの外全部血液細胞なり。

淋巴腺：大いに充し、出血す。淋巴腺の大部分壞死す。

第60例　バークシヤー雜種　牡　生後7箇月　同上所有

六月二十二日發病。七月五日倒斃し、起立に堪へず。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚に多數の出血點認められる

肺には多數の出血點と少數の出血性梗塞あり。心室の擴張あり。肝は血液に富み、混濁著し、腎、出血點無數なり。脾の約半分は傳染脾を呈す。

胃の大彎部粘膜に出血點多數あり。腸：小腸には出血點少數あり。盲腸、結腸の全體に亘り粘膜に大小種々なる釦狀結節無數に存在す。直腸の粘膜は殆ど全く Diphtherie 性義膜に被はる。淋巴腺は一般に腫脹し、暗赤色を呈し、出血著明なり。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。肝細胞は殆ど悉く空胞を形成し、核の Pyknose を呈するもの多し。小葉間質には淋巴樣細胞多量に集積し、中心靜脈の附近の毛細管内にも多數の淋巴樣細胞の集積あり。

腎：曲細尿管上皮混濁腫脹に陷る。皮質の間質に淋巴樣細胞の集積著しき部分多數に存在す。

脾：髓質大に血液に富み、殊に淋巴濾胞の周圍に著明にして、此部に出血せるものも少からず。

淋巴腺：著明の充血と出血を認む。

第61例　バークシヤー雜種　牡　生後7箇月　同上所有

六月二十日發病。七月五日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺には著しき變狀なし。心室の擴張あり。心筋軟化す。肝は混濁す。腎には出血點多數なり。腸：大腸には全部に亘り大小種々なる釦狀結節發生す。淋巴腺は一般に腫大し、赤色を呈し、出血著し。

内臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、著明なり。肝細胞の混濁腫脹空胞形成著明なり。小葉間質及中心靜脈の周圍に淋巴樣細胞多量に集積す。

腎：皮質部には淋巴樣細胞の集積著しく、島嶼狀に集團し、該部に於ては細尿管消失して認め能はざるか、管腔大に萎縮するか又は上皮細胞の集團を認むるに過ぎず。

脾：淋巴濾胞明ならず。此部に充血出血著明なり。

淋巴腺：出血著明なり。

第62例　バークシヤー雜種　牝　生後7箇月　同上所有

六月二十二日發病。七月五日削瘠し、水瀉下痢をなす。屠殺解剖。

主なる解剖所見

皮膚に出血點の發生著し。

肺には出血點少數あり。心室擴張し、心筋軟化す。肝に溷濁あり。腎には出血點無數にして腎盂に出血高度なり。脾は少しく血液に富む。胃及小腸に少數の出血點あり。大腸は殆ど全部に亘り、ヂフテリー性義膜を被る。場所により箇々の釦狀結節の認めらるゝものあれども、大部分のものは融合して大義膜を形成するものなり。淋巴腺は一般に高度に腫大し、出血著しく、暗赤色を呈す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血僅に存す。肝細胞は溷濁腫脹し、空胞の形成著明ならず。

腎：皮質部間質に多數の出血竈あり。淋巴樣細胞の集積せる結節も點々散在す。曲細尿管上皮の變性著明にして細胞質の崩壞、核の Pyknose. 上皮の剝脫多量に認めらる。

脾：髓質少しく血液に富む。淋巴濾胞の出血竈となれるもの多し。

淋巴腺：大に血液に富み、僅に種子中心を認むるのみにして他は悉く出血竈となる。

第63例　桃園種　牝　3年　同上所有

六月二十六日發病。七月七日屠殺解剖。

主なる解剖所見

肺、心には著しき變狀なし。肝溷濁し、血液に富む。腎は血液に富み、溷濁す。脾に少數の出血性梗塞あり。盲腸は充血高度にして出血點少數に存在す。結腸及直腸粘膜の大部分には陳舊なる治癒しつゝある壞疽病竈あり。淋巴腺は一般に腫大し、赤色を呈するも、出血輕度なり。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血少しく存す。肝細胞の壞死せるもの多數に散在す。肝細胞の混濁、空胞形成著明ならず。肝細胞には Haemosiderin にあらざる褐色塵埃沈著す。

腎：皮質には出血竄點々と散在す。上皮細胞混濁腫脹し、細胞質の崩壞するもの多く、核の Pyknose を呈するもの少し。

脾：髓質、血液に富み結締織の增殖著しく髓質細胞粗鬆なり。淋巴濾胞大いに充血乃至出血す。

淋巴腺：少しく充血す。輕度の出血を認む。

第64例 桃園種 牝 3年 同上所有

六月二十四日發病。七月七日屠殺解剖。

主なる解剖所見

皮膚には出血點少數に認められる。

肺に出血點多數あり。出血性梗塞も多數に認められる。肝は少しく血液に富む。腎は出血點の多數と白色の瘢痕多數を示す。腎の內側に鷄卵大の Stephanurus dentatus の寄生病竈あり。脾少しく血液に富む。胃の大彎部粘膜に出血斑多し。小腸に出血點多し。大腸は充血し、出血斑少數なり、淋巴腺一般に腫大し出血著明なり。

內臟の細菌檢查陰性なり。

主なる組織所見

肝：鬱血や、高度なり。小葉內に小なる淋巴樣細胞の結節極めて少數に存在す。其周圍の肝細胞壞死す。肝細胞に Haemosiderin にあらざる顆埃樣褐色色素沈著す。

腎：曲細尿管の上皮細胞の變性著しく細胞質の崩壞せるもの、核の Pyknose を呈するもの多し。細尿管內に出血せるものも少數に存在す。間質に淋巴樣細胞の集積あり。

脾：髓質の細胞粗鬆なり、Siderocyten 極めて多し。淋巴濾胞も細胞粗鬆にして其周圍に充血强し。

淋巴腺：充血、出血著明なり。

第65例 バークシヤー雜種 牝 2箇月 臺北州基隆郡 吳石林所有

三月十六日斃死。解剖。約1箇月前に發病したりと云ふ。

主なる解剖所見

肺は貧血するの外著しき變狀なし。心は室壁菲薄にして軟弱。混濁强度なり。心囊水多量なり。肝は貧血著しく、色は白く僅に褐色を帶ぶ。腎貧血し、白色を呈す。小出血斑少數に存在

す。脾は高度の傳染脾なり。大腸は高度のカタールを示し盲腸粘膜は著明に浮腫するも潰瘍なし。淋巴腺一般に腫大す。出血著しからず。胃淋巴腺に壞疽性結節を認む。

內臟の細菌檢査陰性なれども胃淋巴腺よりは結核菌を檢出したり。

主なる組織所見

肝：鬱血高度なり。肝細胞著明に萎縮す。殊に中心部に高度なり。且肝細胞核の集團せるもの少からず。間質に淋巴樣細胞の集積著し。

腎：曲細尿管の變性高度にして上皮細胞の崩壞せるもの、核の Pyknose を呈するもの夥多なり。間質に淋巴樣細胞の集積あり。

脾：固有組織殆ど全く消失して、赤血球充滿し、僅に淋巴濾胞の痕跡を認むるのみ。

淋巴腺：胃淋巴腺血液に富み、小なる壞疽結節や、多數に存在す。結締織の增殖多く、上皮樣細胞及 Plasma 細胞多數に集積す。多數の異物型巨態細胞を認む。結核菌染色を行ふに壞疽性結節內、巨態細胞內及上皮樣細胞內に多數の結核菌を證明す。其他の淋巴腺はや、血液に富むも壞疽病竈を認めず。

第66例　バークシヤー　牝　2箇月　臺北州基隆郡　林慰紅所有

三月八日發病。同十六日斃死。解剖。

主なる解剖所見

肺は著明に浮腫す。前及中葉は少しく、密實にして斷面より流下する漿液は少しく溷濁し泡沫を混ず。心は少し擴張し、出血點や、多數なり。

肝は間質の增殖著しく硬固なり。腎には充血あるも出血點なし。脾少しく血液に富み、腫大す。腸：廻腸に2箇の徑約 8mm の潰瘍あり。盲腸には多數の點狀乃至徑 1cm の潰瘍存在す。

淋巴腺一般に著しく腫大し、少しく血液に富む。斷面を作るに著明なる壞疽組織を認む。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肺：密實部の切片標本を檢するに剝離せる上皮細胞、少數の淋巴細胞を容る、肺胞頗る多數にして、漿液のみの浸潤を示す肺胞も少からず。肺胞壁の毛細管、血液を充滿す。又肺胞內に漏出せる赤血球も認められる。

肝：鬱血高度なり。小葉內に nekrobiotische Herde 多數に存在す。小葉間質厚くして細胞に富み、淋巴樣細胞及エオジン嗜好性細胞夥多なり。

腎：やゝ血液に富む。曲細尿管上皮の核の Pyknose を呈するもの、細胞質の崩壊せるもの、空胞を形成するもの等多數あり。

脾：血液に富む。淋巴濾胞は殆ど悉く出血竈となる。

淋巴腺：充血し大なる壞死竈多數に認められ、固有組織僅に認められるゝに過ぎず。

第67例　バークシヤー　牡　生後3箇月　臺北州七星郡　江頭分教場所有

六月二十四日解剖に附す。患畜は約1週間前より元氣食慾衰へ便秘を呈したり。二十三日夜斃死したり。

主なる解剖所見

皮膚にやゝ多數の出血點を認む。

肺は多少浮腫あり。少數の大なる出血斑認められる。心の心外膜は殆ど出血斑に覆はる。心筋は混濁强く、柔軟にして菲薄なり。心嚢は凝血を充たす。肝は高度に混濁す。腎は小出血無數にして腎盂の出血も認められる。脾は中等度の傳染脾を呈す。胃はカタールを呈す。小腸もカタールを呈し、多數の蛔蟲を容る。盲腸及結腸には小豆大乃至指頭大の釦狀結節多數なれども出血斑は少數なり。淋巴腺：全身淋巴腺腫大し、出血著明なり。腸間膜淋巴腺は赤黒色を呈す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：大小種々なる nekrobiotische Herde 小葉內に多數に認められる。肝細胞の蛋白樣變性著明なり。小葉間質に淋巴樣細胞の集積認められる。

腎：皮質部の毛細管出血夥多なり。皮質部間質の增殖著しく、細尿管の萎縮、消失せるもの少からず。曲細尿管上皮の壞死せるもの、硝子樣變性を呈するもの等存在す。

脾：髓質大いに赤血球に富み、固有細胞少數に認められる。淋巴濾胞血液に富み、エオジン嗜好性白血球多し。固有細胞粗鬆なり。

淋巴腺：固有細胞粗鬆にして、淋巴結節の周緣部に出血著明なり。nekrobiotische Herde も認められる。

第68例　バークシヤー　牝　生後3箇月　同上所有

病歷前例と同樣にして、榮養不良、好んで伏臥す。六月二十四日血球數を計りたるに赤血球數3,520,000白血球12,400なり。同日屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺には著しき變狀なし。心は擴張し、柔軟なり。肝及脾は著しき變狀を呈せず。腎は充血し皮質部に少數の出血點認めらる。輕度の混濁あり。胃及小腸はカタールを示し、盲腸及結腸には少數の徑約 1mm の釦狀結節認めらる。淋巴腺の內皮下淋巴腺は腫脹し充血あるも、出血輕度なり。內臟淋巴腺は著明に腫脹し、多數の表在出血を認む。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：間質に淋巴樣細胞の輕度の浸潤あり。尙又エオジン嗜好性白血球の集積や、著明なり。

腎：皮質部の間質增殖し、淋巴樣細胞の集積も認めらる。

脾：淋巴濾胞の周圍充血す。淋巴濾胞も血液に富み、固有細胞に乏しく、間質細胞のみとなる。

淋巴腺：內臟淋巴腺につきて見るに、充血あり、淋巴結節の周緣部に出血あり。固有細胞に乏しく、間質細胞に富む。

第69例　バークシヤー雜種　牡　生後3箇月　臺中州北斗郡　洪時所有

八月十七日斃死す。發病後二日なりと云ふ。榮養良なり。

主なる解剖所見

肺は血液に富み、少しく浮腫性なり。心多少擴張す。肝には相當の鬱血存在す。腎は充血するも、出血點を缺く、脾少しく充血し、淋巴濾胞潮紅す。胃底部著明に充血す。小腸は殆ど全體に亘り 2mm 厚の Diphtherie 性義膜によりて密に被覆せらる。盲腸には約20箇の釦狀結節 (2mm—1cm 大) 認めらるゝも、結腸及直腸はカタールを示すのみ。淋巴腺：腸間膜淋巴腺は充血腫大し、少數の出血點を示す。皮下淋巴腺は腫大し、多少充血あり。斷面濕潤なり。內臟淋巴腺は一般に腫大充血し輕度の出血を示す。

內臟の細菌檢査陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉に鬱血あり。大小種々なる nekrobiotische Herde 多數に存在す。肝細胞の核の濃縮を呈するもの多數に散在す。

腎：曲細尿管上皮殆ど悉く核の Pyknose を示す。

脾：淋巴濾胞及其周圍充血著し。淋巴濾胞及髓質內に小なる壞疽性結節多數に認めらる。

淋巴腺：髓質部に充血あり。莢膜下淋巴竇に出血を認むる部分あり。實質中殊に髓質部に於

て小なる壞疽性結節多數に認めらる。

B. 人工感染例

第1例 バークシヤー雜種 牡 生後7箇月 當研究室所有

昭和十年四月二十八日。自然感染豚（臺北州基隆郡萬里庄林旺來所有。バークシヤー雜種、牡、5箇月。發病三月十四日。同月十六日採血）の血液 (Citratblut) 2cc を皮下注射す。注射後五日にして發熱し、食慾、元氣大いに衰ふ。其後衰弱加はり。五月二十一日に至り、殆ど死に瀕す。此日放血解剖に附す。

主なる解剖所見

皮膚に多數の出血點認めらる。

肺少しく血液に富み、指頭大の出血性梗塞少數に存在す。心臟には心外膜下に粟粒大の出血斑多數に存在す。肝は少しく血液に乏しく、僅に混濁す。腎はや、血液に乏しく、其皮質にや、大なる（粟粒大乃至帽針頭大）出血斑多數に存在す。腎盂にも少數の出血斑存在す。膀胱にも少數の出血點認めらる。脾は少しく腫脹し、血液に富むも髓質を塗抹し得ず。淋巴濾胞は潮紅す。胃の大彎部粘膜に米粒大に至るまでの大小不同なる出血點あり。腸は全體に亘り、カタールあり。出血點も相當多數に認めらる。喉頭及喉頭粘膜に點狀—指頭大に至る出血斑多數あり。淋巴腺は一般に著しく腫大し充血あり。其多數は出血す。股骨々髓は輕微の赤色骨髓を呈し、少數の出血點を示す。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉內毛細管の擴張あり。浮腫又著明なり。殆ど全肝細胞空胞形成をなし、脂肪染色によりて脂肪顆粒を示す肝細胞多數なり。

腎：曲細尿管上皮の壞死せるもの、硝子樣變性を呈するもの多數なり。尙直細尿管上皮の硝子樣變性をなすものも少からず。皮質部に毛細管出血及絲毬體の出血するものを認め、細尿管內に赤血球及血色素塊を認むるもの多し。皮質部の間質の所々に淋巴樣細胞の集簇を認む。

脾：髓質少しく血液に富む。淋巴濾胞及其周圍血液に富み、出血を呈するものも存在す。

淋巴腺：充血す。淋巴結節の周緣部に出血著明なり。

第2例 バークシヤー雜種 牡 生後10箇月 當研究室所有

五月二十一日前例の血液（Citratblut）を皮下注射す。五月三十一日發熱、元氣なく食慾減損す。六月十二日食慾全廢。十三日斃死す。

主なる解剖所見

皮膚に出血點相當多數に認めらる。

肺には出血斑及指頭大の出血性梗塞多數に認めらる。氣管支内には血液を混じたる粘液多量に存在す。心臟の内外膜下小出血斑多數なり。肝の小葉中心部の鬱血高度にして、且混濁も著し。腎の皮質部には小出血斑多數なり。腎盂には凝血を容る。脾は稍々腫大し、淋巴濾胞認め難し。髓質に小出血斑散在す。胃の底部粘膜に小出血斑多數に存在す。腸：粘膜はカタール性にして浮腫す。結腸及直腸の粘膜には小出血斑密發するも、其他の部分に於ては小出血斑散發す。結膜の始部に釦狀結節（徑約 1cm）8箇を認む。淋巴腺は一般に等しく腫脹し、出血著明なり。骨髓：股骨々髓は白色にして小出血斑少數に認めらる。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉内毛細管大いに擴張し、鬱血著明なり。浮腫も亦高度なり。肝細胞は殆ど全部に於て萎縮し空胞形成著しく、脂肪顆粒も夥多なり。

腎：皮質部の毛細管出血著明なり。絲毬體の出血せるものも少からず。曲細尿管上皮の葡子樣變性顯著なり。曲並に直細尿管中上皮細胞の崩壞せるもの少からず。

脾：髓質には網狀織の增殖あり。小なる出血竈少數に認めらる。淋巴濾胞は細胞稍粗にして其周圍に充血あり。

淋巴腺：大いに充血し浮腫又高度なり。淋巴結節の周緣部には出血著明なり。

第3例　バークシヤー雜種　牡　生後6箇月　當研究室所有

九月十日自然感染豚（自然感染解剖例第69例と同腹の仔豚、採血八月十七日、冷藏）の血液（脫纖血）5cc 皮下注射す。九月十六日に至り、輕度の發熱（39度5分）あり。翌日平熱となり、同二十六日に再び輕度に體溫上昇し、同二十九日に至り40度に上昇し、三十日には40度1分となる。此日屠殺解剖に附す。榮養良なり。

主なる解剖變狀

肺及心には著しき變狀なし。肝は少しく混濁するのみ、腎は多少充血す。脾には2箇の小なる出血性梗塞あり。胃には注意すべき變狀なし。小腸には多數の蠕蟲寄生す。結腸及直腸は少

しく充血し、粘膜には白色の瘢痕散在す。淋巴腺：皮下淋巴腺は少しく腫脹し、浮腫を呈するも、充血なし。下頸淋巴腺には少數の淋巴結節に著しき腫脹と出血認めらる。内臟淋巴腺は浮腫するも充血輕度なり。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉間質に淋巴樣細胞の集積あり。且小葉内毛細管に淋巴樣細胞や、多數に存在し、尙又之が小結節狀に集積せるものも相當多數に認めらる。

腎：曲細尿管上皮の核の Pyknose に陷るもの少からず。皮質の間質に淋巴樣細胞の小結節狀に集積せるもの少數に存在す。

脾：淋巴濾胞の周圍僅に血液に富む。Hülsenarterie の莢組織著しく肥厚す。

淋巴腺：細胞網粗にして一般に間質の增殖や、著し。

第4例 桃園種 牡 生後4箇月 當研究室所有

十一月八日人工感染第1例系毒血（接種2代）5cc を皮下注射す。同月十六日に至り發熱し、元氣食慾不振となり、糞も亦硬固となるに至れり。同二十三日に至りては食慾全く廢絶し、削痩著明にして、胸下の皮膚に血斑を認むるに至れり。屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺に1箇の小なる出血性梗塞のある外著しき變狀なし。心には其心外膜下に出血點少數認めらる。肝は少しく硬固にして、小出血斑散在す。膨濁可成著しく、小葉像少しく不明瞭なり。腎は皮質に少數の出血點を示す。脾は莢膜下に出血斑を示す。胃輕度のカタールを示す。小腸には少數の蛔蟲寄生す。大腸：盲腸の全部及結腸の前半部に大豆大の卸狀潰瘍多數に散在す。直腸は充血强く、少數の小出血斑を示す。皮下淋巴腺は一般に腫脹し、漿液に富み、出血斑に乏し。内臟淋巴腺は高度に腫脹し、出血著明なり。

内臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉間質の增殖可成著しく、小葉の形狀大小大いに區々なり。間質の淋巴樣細胞の集積や、著明なり。肝細胞の排列不整なり。肝細胞の大部著しく脂肪變性に陷り、脂肪變性を呈せざるものも其核の Pyknose を示すもの多數に散在す。小なる nekrobiotische Herde 少數に認めらる。

腎：曲並に直細尿管中上皮細胞の壞死せるもの少からず。

脾：淋巴濾胞及その周圍少しく血液に富む。

淋巴腺：內臟淋巴腺に充血、出血認めらるゝも壞疽病竈を認めず。

第5例　株圓種　牡　生後5箇月　當教室所有

十一月八日自然感染豚（臺中州北斗郡）の毒血を皮下注射す。同十六日に至り發熱し、同三十日瀕死のものを屠殺解剖に附す。

主なる解剖所見

肺及心共に著しき變狀なし。肝は强く混濁す。輸膽管に蠕蟲を認む。腎は混濁し、出血點密發す。膀胱に出血點散在す。脾は血液に富み稍々腫大するも淋巴濾胞を認め得。胃には著しき變狀なし。小腸には蠕蟲多數に存在し、粟狀結節（小豆大）少數に認めらる。盲腸及結腸には點狀乃至指頭大粟狀結節無數なり。粘膜も亦高度に潮紅し、出血斑多數に認めらる。直腸には大なる粟狀結節多數に存在し、粘膜の潮紅、出血も著明なり。淋巴腺は一般に浮腫す。少數の內臟淋巴腺は出血を示す。扁桃腺に1箇の小豆大粟狀結節を認む。

內臟の細菌培養陰性なり。

主なる組織所見

肝：小葉內に小なる nekrobiotische Herde や、多數に存在す。小葉邊緣部の肝細胞脂肪變性に陷る。分裂像を呈する肝細胞多く、又核の Pyknose を呈するもの多數に散在す。小葉間質及小葉內毛細管內に淋巴樣細胞多數に集積す。

腎：皮質部の間質に毛細管出血認めらる。曲細尿管上皮の核の Pyknose に陷るもの少からず。

脾：髓質大いに赤血球に富む。淋巴濾胞は間質細胞に富み、固有細胞に乏しく、小なる nekrobiotische Herde を示すもの少からず。且其周圍は血液に富み、出血を呈するもの多く、中には全く出血竈と置換せらるゝ濾胞も存在す。

淋巴腺：少しく血液に富み、細胞粗大なり。淋巴結節の周緣部に出血を呈するものあり。

II. 病理解剖

前述の實驗例の記載を總括的に述ぶれば次の如し。

A　出血斑の出現

1　皮膚の出血斑　74例の實驗例中15例に於て出血點の發生を認めたり。かゝる例は著明の急性敗血症狀を有する病例にして內臟の出血斑の出現は更に顯著なるを常とす。

2　淋巴腺の出血　74例の實驗例中73例に於て高度或は輕度の出血を認めたり。1例の陰性例は恢復例にして既に症狀の消失せしものなり。淋巴腺の出血極めて高度なる例にありては皮下淋巴腺も內臟淋巴腺も悉く大に腫脹し且出血して暗赤色を呈し、之を切斷するに全斷面暗赤にして白色の部分を止めざるものあり。やゝ出血の輕きものにては結節の中心部に少許の白色部を散在するに止まるもの、或は出血は結節の邊緣部に存在するも內部は全く白色なるか又は小なる出血點を示すに過ぎざる程度のものあり。出血の輕度のものにては淋巴腺の全結節に出血を認むることなく、其一部に之を認むるに過ぎざることあり。淋巴腺の出血輕度なる例にても出血の好發する淋巴腺は胸腔入口の淋巴腺、肺門淋巴腺、胃及肝臟淋巴腺等にして、かゝる出血輕度の例にありても尙各部の淋巴腺に多少の浮腫を見るを常とす。淋巴腺の出血の程度は本症の症狀を明示するものにして且本症の解剖所見中殆ど必發する變狀なりと云はざるべからず。

3　腎臟の出血　腎臟皮質の出血點の發生は本症に頻發する變狀にして74例の實驗例中34例に於て之を證明し得たり。出血點の大さは點狀より米粒大に至り、其數は少きは數箇より多きは無數にして腎表面全く出血點に覆はるゝが如きものも存在す。かゝる出血著明の例にありては腎盂にも出血斑を認め、凝血を滿すものも稀ならず。かゝる腎皮質の點狀出血は本症にやゝ獨特にして診斷上重要なる所見なりと云ふべし。

4　上記以外の臟器の出血　消化器粘膜及肺、肝、漿液膜等の出血も多數の本症患者に認めらるゝ所にして是等の臟器に出血全くなかりし例は74例中僅に9例に過ぎず。

本症の解剖變狀中出血は著明なるもの一にして、余等の實驗例74例の內恢復例一例を除き73例に於て多少の出血を認めたり。本症の症狀を有するときは急性慢性を問はず、何れかの臟器（殊に淋巴腺）に於て必らず多少の出血を證明し得るものなりと言ふも可なるべし。

B　出血性梗塞

本症に於ては肺及脾に出血性梗塞を認むることあり。74例の實驗例中肺に出血性梗塞を示したるもの10例、脾に之を認めたるもの16例にして腎には全例を通じ之を認めず。

C　肺　　炎

余等の74例の實驗例中肺炎を認めたるもの僅に11例にして、且是等の例は悉く、肺に細菌の感染あることを證明せられたり。是等の肺炎はかゝる混合感染菌の所産なりと考ふべきものなるべし。證明せられたる細菌は豚疫菌（2例）、豚コレラ菌（2例）、化膿性桿菌（3例）、大腸菌（2例）、連鎖狀球菌（1例）なり。

本症に於ては多數の例に於て肺に暗赤色の少しく陷沒し、無氣となれる漿液浸潤部（米粒大乃至指頭大）を少數に認むることあり。之を切斷するに血液及漿液に富む。かゝる浸潤部は肺の周緣部に好發す。かゝる浸潤部に2次的に細菌の侵襲し、肺炎を發生したりと認むべき例存在す。卽ち自然感染例10及49例の如き是れなり。

前述の如く余等の實驗例中僅に10例の肺炎を證明したるに止まり、且是等の肺炎は何れも細菌の侵襲によるものなりと云ふべし。

D　大腸粘膜の鈕狀結節及ヂフテリー性炎症

74例中之を證明したるもの47例にして、輕度なるは廻盲瓣の周圍に小豆大のもの數箇を認むるに過ぎざるものより、多きは粟粒大乃至指頭大に至る結節盲腸結腸全體に密發するものにして、かゝる多發例にありては直腸にも同樣の結節點々散在し、且大腸粘膜は通常著しく腫脹す。かゝる結節は必らずしも淋巴濾胞に位置するものにあらず。殊に多數に發生したる場合に於て然り。鈕狀結節の大いさ徑3mm大以上に達するが如きものにありては結節、粘膜面に多少隆起し、表面汚灰色を呈し、平行せる環狀線多數を示す。其底部は筋層に達し、屢々腸管の全層を穿通して腹膜に及び限局性腹膜炎を發する例あり、結節の最小なるものは點狀、灰白色を呈し全く凝固壞疽點にして粘膜の表層に位置す。結節の大いさ徑3mmを超ゆるものにありては表面に大いさにより少數又は多數の環狀線を認め得べく、底部は大きさに應じ粘膜の深層に及ぶ古き結節は往々表面溶崩して陷沒し、潰瘍面を形成することあり。又例によりてはかゝる結節狀をなさずして粘膜面廣きに亘りてヂフテリー性義膜を被り、又は粘膜の壞疽を示すことあり。かゝる例を少數に認めたり。

大腸のかゝる鈕狀結節乃至義膜性炎症の存在は本症の診斷上極めて重要なる變狀にして通常本症の特徵的變狀と考へらるゝ所なり。然れどもかゝる大腸の變狀を全く呈せざる例も少からず。殊に急性例又は發病後早期に解剖せられたる例にありては屢々腸の變狀を缺如するものなれば本症の診斷上該變狀を過度に重要視すべからざるものなりと云ふべし。

恢復期にある例にありては大腸粘膜の所々に表面平滑にして收縮せる白色斑あり。著しき例

にありては爲に腸管甚しく狹窄す。かゝる腫瘍中一部のものには尙瘻孔を附著せるものあり。又古き潰瘍を少數に示す例等存在す。

III. 病 理 組 織

本症の主なる內臟の組織學的所見を總括的に且少しく詳說する所あらんとす。

A 肝 臟

1 肝の壞疽性變狀 附圖 1, 2, 3 參照

本症に於ける肝は肉眼的には鬱血、漿膜下の出血點、混濁を認むることあるの外大なる變狀を認むることを能はざるを常とす。然るに之を顯微鏡下に檢するとき著明の壞疽性變狀を認むる例多く、從て本症に於ける肝の組織所見は大いに重要視すべきものなりと云ふべし。

本症の肝は鬱血のため通例小葉內毛細管著しく擴張し、且之と肝細胞との間に廣き空隙を生ず(肝の浮腫)。中心靜脈附近に於て毛細管囊狀に擴張せるものあり。かゝる鬱血毛細管の間に存在する肝細胞に著しく萎縮し空胞を形成せるもの多く、鬱血の著しき部分に於ては往々肝細胞の消失認めらる。肝細胞の蛋白樣變性著しき例にありては屢々肝細胞壞死し、その核の Pyknose に陷り細胞質の顆粒消失し、酸性色素に濃染するもの點々と散在す。かゝる所見は急性經過をとりたる例又は發病後早期に屠殺せられたる例の肝に於て屢々認むる所なり。又少數例に於ては小葉中心部の肝細胞悉く壞死するものも認めらる。

然るに發病後少しく日數を經たるものにして殊に重症例に於ては屢々肝小葉內の nekrobiotische Herde を認むるものなり。余等の解剖例74例中腐敗のため組織の檢査を行ひ得ざりし5例を除きたる69例中該病竈を認め得たるもの46例の多きに達したり。本症に於ける肝の所見中該所見は最著明なるものなり。

かゝる nekrobiotische Herde を有する肝より細菌培養（普通寒天、血液寒天、高層寒天、血清ブイヨン等)を行ふも全く菌の發育を認めず。又之が塗抹標本及切片標本に於ても全く微生物を證明することを能はず。卽ちかゝる壞疽病竈內には可視原因體を含有せざるものなり。

かゝる壞疽性病竈は或は殆ど全肝の小葉內に存在し、或は少數の小葉內にのみ認めらるゝものあり。大さ種々にして大なるものは小葉の大部分を占め、小なるものは數個の壞死肝細胞を周らす小結節に過ぎざるものあり。小葉內に於けるかゝる結節の數は1—5箇なり。かゝる結節

の小なるものは多くは内皮細胞及遺殘せる肝細胞核ニ認むべき、大なる核、少數の淋巴樣細胞、少量の赤血球及周圍に存在する少數の壞死せる肝細胞より成立す。やゝ大なるものにありては其中心に崩壞したる核の小片を混ずる壞死部、其周圍には內皮細胞及遺殘肝細胞核ニ認むべき大なる核及淋巴樣細胞存在し、更に其周圍には壞死し核の Pyknose に陷れる肝細胞存在す。かゝる結節の中心部には多量の赤血球を認むるこゝ屢々なり。更に大なる結節にありては核崩壞を示す中心の壞死部大にしてその周圍の裸出せる大なる細胞核、淋巴樣細胞の集積等多量にして又多量の赤血球を混ず。かゝる nekrobiotische Herde の發生につきその順序を明にせんニし多數例につき檢査したるに、最初小葉內毛細管內に內皮細胞及淋巴樣細胞の集積あり、次いで周圍の肝細胞壞疽に陷り、茲に始めて壞疽性結節成立し、次いで增大するニ共に中心部の細胞壞疽に陷り無構造ニなり、特異の nekrobiotische Herde を生ずるに至るものゝ如し。

肝小葉內に著明の出血ありて同時に小葉の全部又は大部分に於て肝細胞の壞死の認めらるゝこゝ少からず。かゝる例にありては他の臟器の出血も亦高度なるを常ニす。

2　肝の淋巴樣細胞の集積　附圖 4, 5 參照

余等の實驗例69例中44例に於て肝の淋巴樣細胞の集積を認めたり。

淋巴樣細胞の集積は多くは小葉間質に存在するものなれぞも、之ニ同時に小結節狀に又は一樣に小葉內毛細管內に存在し又は中心靜脈周圍に結節狀に集積するこゝあり。かゝる小葉內の結節の屢々壞疽性結節に移行するを認むるこゝあり。淋巴樣細胞の集積輕度の例は多く輕症例又は恢復期の例に認むる所なり。著明なる例は他の臟器の變狀も相當著しき例に認むるものなるも、他の臟器の變狀輕微なるに拘はらず、かゝる變狀の著明なる例も存在す。

B　腎　臟　附圖 6, 7 參照

本症に於ける腎臟の常在變狀は細尿管特に曲細尿管に於ける上皮細胞の溷濁腫脹にして輕症例に於てもよく認めらる。重症例に於ては曲細尿管上皮の脫落、消失、脂肪變性、壞死等證明せらる。

尙腎臟に於ても肝臟に於けるニ同樣淋巴樣細胞の集積を認むる例少からず。實驗例69例中22例に於て之を證明し得たり。肝の該變狀ニ必らずしも並行するものにあらず。腎に於ける淋巴樣細胞の集積の最よく出現する部位は皮質間質にして殊に絲毬體附近の小靜脈周圍なり。その集積の狀態は或は結節狀或は散在性なれぞもその集積の著明なるものにありては殊に間質の增

殖著しく絲毬體及曲細尿管の萎縮消失認めらる。

C 脾　臟 附圖 8 參照

本症に於ては著しき傳染脾を認むること稀なり。されど各例を通じ多少血液に富み殊に淋巴濾胞の周圍に充血著明なり。著しき例にありては淋巴濾胞周圍の出血認められ、時には淋巴濾胞充血し、或は出血し、又は淋巴濾胞消失して出血竟と代れる場合すら認めらる。髓質も多少血液に富み、Milzsinus 著しく充血せるものあり。その著明なる部分にありては出血を認む。又例によりては Hülsenarterie の莢組織の肥大し髓質萎縮して著明に認めらるゝものあり。

脾臟に於ても壞疽性結節を認むる例少からず。69例の實驗例中21例に之を認めたり。かゝる結節は或は髓質に或は淋巴濾胞に位置す。大なる結節にありては箇々の淋巴濾胞の全體を占め、又髓質内に存在するものも之と同樣の大きさを呈するものあり。かゝる結節の中央には崩壞せる細胞核點々と存在し他は無構造となれる凝固物質にして、不明確ながら元の細胞を認め得るものも存在す。小なる壞疽結節にありては少數の壞死細胞より成立し、淋巴濾胞及髓質中に散見す。脾臟のかゝる結節に於ても肝臟に於ける如く培養及鏡檢により細菌を證したることなし。

D 淋 巴 腺 附圖 9, 10 參照

本症の變狀中淋巴腺の出血は最常存するものなることは既に記載したる所なり。

淋巴腺の出血著明なるものを鏡檢すれば島嶼狀に實質の散在するに過ぎずして、他は悉く赤血球を充滿す。比較的大なる材質は充血し漿液浸潤を受け爲に腫大するを常とするも、小なるものは消失して認むることを能はず。出血の著明ならざるものにありても淋巴竇殊に莢膜下竇に近接する實質(細胞に乏しき部)に充血あり、多少の出血あるを常とす。かゝる場合通常實質間質共に充血、浮腫して細胞離開す。出血を呈せざる淋巴腺にありても實質及間質に多少の充血と漿液浸潤存在し、細胞離開して粗なるを常とす。

淋巴腺に於ても肝、脾に於けるが如く壞疽性結節の發生を認むることを屢々にして實驗例69例中27例に於て之を認めたり。その著明なるものにありては内臟淋巴腺は殆んど悉く壞死し、且つかゝる例にありては結節狀を呈せずして淋巴腺全體壞死す。通常は内臟淋巴腺の大部分又は一部に於て殊にその大なるものに小なる結節を認むるものなり。壞死の新しく小なるものにありては尚元の細胞の形態を具ふるも、やゝ大なる結節にてはその中心部に崩壞したる核物質の散在するを認め周緣部に新しき壞疽細胞を認むるを常とす。結節は又多く赤血球にとみ、結節

の周圍には充血乃至出血あるを常とす。元よりかゝる結節よりは細菌を證明せず。

E 肺　臟　附圖 11, 12 參照

本症に於ける肺の變狀は例により結節狀に小なる漿液浸潤部の散發することゝ、比較的稀に認めらるゝ出血性梗塞が主なるものにして、出血點の發生を認むる例少からざるも重要視すべき變狀にあらざるべし。肺炎は混合感染菌の存在の下に營まるゝものと解すべきものなれば本症の變狀としては重要なるものにあらざるべし。本症に於ける肺の漿液浸潤部の發生は細菌の感染を容易にし肺炎に發展する可能性大なりと考ふべき例（第66例）を認むることあれば茲に少しく記載する所あらんとす。

本症に於て肺の周緣部によく認めらるゝ指頭大の浸潤部は之を檢するに毛細管の輕度に止まる充血、肺胞内の漿液浸潤、少數の液巴樣細胞の浸潤、少數の腫大せる脫落肺胞上皮等を認むるに過ぎず。且周圍の健全なる肺胞とは明確に區別せらる。かゝる時期にありては勿論細菌の侵襲を蒙らざるを常とす。

更に肺の變狀の進行せるものにありてはかゝる漿液浸潤部擴大し、鏡檢すれば肺胞壁の毛細管著しく充血し、肺胞内に漏出せる赤血球も認めらる。肺胞は漿液浸潤をうけ、肺胞上皮の腫大して脫落せるものも多く、且既に其核の崩壞せるもの、溶崩せるもの等認めらる。肺胞内に浸潤せる細胞は淋巴細胞單核細胞にして、殆ど中性白血球の遊出を認めず。肺胞内に浸潤したる細胞及脫落上皮等凝集して一の團塊となり肺胞を充すものも認めらる。かゝる時期にありては尙氣管細枝にも炎症波及せず殆ど健全なるを例とす。細菌の侵襲は尙之を認むることを能はず。

肺の變狀更に一層進行するに至れば細菌の侵入を證明し得べく、カタール性、纖維素性壞疽性炎症の變狀等認めらるゝに至るものなり。されどかゝる肺の變狀は混合感染菌に原因すと認むべく、豚コレラ病毒による變狀と認むべからざるものなれば茲に贅言せず。

總　括

前述せる試驗成績を總括すれば次の如し。

1　前述の諸變狀中主なるものにつき實驗各例を概觀するに便なる爲次の如き表を作製したり。

豚コレラの病理解剖竝に組織所見　※ハ屠殺例

解剖番號	解剖所見								組織所見								培養所見
	出血				出血性梗塞		肺炎	大腸粘膜の釦狀結節及漿膜	肝小葉内の壞疽性結節	淋巴腺の細網内皮細胞の集積		脾の壞疽性結節	淋巴腺の壞疽性結節	肺炎			
	皮膚	淋巴腺	腎	その他の内臓	肺	脾				肝	腎			カタール性	纖維素性	壞疽性	
自然感染 1	—	++	—	—	—	—	—	++	腐敗								—
2	++	+++	+++	+++	—	—	—	+	腐敗								—
3	++	+++	++	++	—	—	—	—	++	—	—	++	+++				—
※ 4	+	+++	+	++	—	—	—	++	+	—	+	—	—				—
※ 5	—	++	+	++	—	—	—	+	++	++	+	—	++				—
※ 6	—	+	—	++	—	—	—	—	++	++	—	++	++				—
※ 7	—	+	—	++	—	—	—	—	+++	++	—	++	++				—
※ 8	—	++	—	++	—	—	++	—	+	++	—	—	—	+	—	—	豚疫菌(肺)
※ 9	—	++	—	++	—	—	++	++	—	+	—	—	—	+	—	—	豚コレラ菌(肺)
※ 10	—	+	—	++	—	—	+	++	++	+	+	—	—	+	—	—	1種の連鎖狀球菌(肺)
※ 11	—	++	—	++	—	—	—	—	+	+	—	—	—				—
※ 12	—	++	—	+	—	—	—	—	—	+	—	—	—				—
※ 13	++	++	++	+	—	+	—	+	+	+	++	+	—				—
※ 14	—	+	—	+	—	—	—	+	—	—	++	—	—				—
※ 15	++	++	++	++	++	+	—	++	+	—	+	—	++				—
※ 16	+++	+++	++	+++	—	—	—	+++	+++	+	++	+	+				豚コレラ菌(肝、脾)
※ 17	—	+	—	—	—	—	—	+	—	+	+	—	—				—
※ 18	—	+	+	+	—	—	—	—	—	+	—	—	—				—
※ 19	—	++	++	++	—	—	++	++	+	++	++	++	—	+	—	—	化膿性桿菌(肺)
※ 20	—	+	—	—	—	—	—	+	—	+	—	—	—				—
※ 21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				—
※ 22	—	++	—	++	—	++	—	+	+	++	+	+	—				—
23	—	+	++	++	—	—	+	++	—	++	+	++	++	+	+	+	豚疫菌(肺、脾)
※ 24	—	++	—	++	—	—	—	—	+	—	—	—	++				—
25	+	++	++	++	—	+	—	—	+	—	—	—	—				—
※ 26	—	++	—	++	—	+	—	—	—	—	—	—	—				—
27	—	++	—	+	—	—	—	+	+	—	—	—	—				—
28	—	++	—	+	—	—	—	—	腐敗								—
29	—	++	—	+	—	++	—	—	腐敗								—
30	—	++	—	++	—	—	—	—	+	—	—	—	—				—
※ 31	—	++	—	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—				—
※ 32	—	++	—	++	++	—	—	—	++	—	—	—	—				—
33	—	++	—	++	—	—	—	—	++	—	—	+	++				—
34	—	++	—	++	—	—	—	+	++	—	—	++	++				—
※ 35	—	++	+	++	—	+	—	—	++	++	—	+	++				—
※ 36	—	++	++	+	+	—	—	++	++	++	—	—	++				—
※ 37	—	++	—	+	—	—	—	++	+	—	+	—	+				—

豚コレラの病理解剖竝に組織所見　※ハ屠殺例

解剖番號	解剖所見 出血 皮膚	淋巴腺	腎	その他の内臓	出血性梗塞 肺	脾	肺炎	節及義膜の大腸粘膜	組織所見 壊疽性結節 肝小葉内の	淋巴腺の様細胞集積 肝	腎	疣性結節 脾の壊疽	淋巴腺の壊	肺炎 カルタ性	纖維性	壊疽性	培養所見
自然感染 ※ 38	—	++	+	+	—	—	—	—	+++	+	—	—	—				—
※ 39	—	++	++	+	—	—	—	++	++	++	—	—	++				—
40	—	++	—	+	—	—	+++	+++	+++	+	—	+	++	+	—	—	化膿性桿菌(肺)
※ 41	—	++	—	+	—	—	—	+	++	+	+	—	+++				—
※ 42	—	++	—	+	—	—	+++	+++	+++	++	—	—	+++	+	—	+	化膿性桿菌(肺)
※ 43	—	++	—	—	—	—	—	+	+	—	—	—	—				—
※ 44	—	++	+	+	—	—	—	++	+	—	—	—	—				—
※ 45	—	++	+	+	—	—	—	—	++	++	—	—	—				—
※ 46	—	+	—	++	—	—	—	—	+++	++	—	++	+				—
※ 47	—	++	++	++	—	+++	—	—	+++	++	—	—	+++				—
48	—	+++	—	+	—	—	+++	+++	腐敗								豚コレラ菌(肺)
※ 49	—	++	+	+	—	+++	+	+	—	—	—	—	—	+	—	—	1種の大腸菌(肺)
※ 50	—	++	—	+	—	—	—	+	—	—	+	—	—				—
51	—	+	—	+	—	+	+++	+	—	—	—	+++	—	+	+	+	1種の大腸菌(肺)
※ 52	—	++	+	++	—	++	—	+	+++	++	—	++	+++				—
※ 53	—	++	—	++	—	++	—	++	+++	+	—	++	+++				—
54	—	++	—	+	—	+	—	+	+++	++	—	—	—				—
55	—	++	—	—	—	+	—	+	+++	—	—	++	+++				—
56	—	++	—	+	—	++	—	++	++	+++	—	—	—				—
57	—	+	+++	+	—	+++	—	+++	+++	+	—	++	+++				—
58	—	+++	+	++	+	—	—	—	+	—	—	+	—				—
59	+	+++	+++	+++	+	—	—	+++	—	+	+++	—	+++				—
※ 60	++	+++	+++	++	+	—	—	+++	—	+++	+++	—	—				—
※ 61	—	+++	+++	+	—	—	—	+++	—	+++	+++	—	—				—
※ 62	++	+++	+++	+	—	—	—	+++	—	—	++	—	—				—
※ 63	—	++	—	+	—	—	—	+(恢復期)	—	—	—	—	—				—
※ 64	+	+++	+	++	++	—	—	—	+	+	++	—	—				—
65	—	++	+	+	—	—	—	—	—	++	++	—	—				結核菌(淋巴腺)
66	—	+	—	++	—	—	+	++	+++	++	—	—	+++				—
67	++	+++	+++	+++	—	—	—	+++	+++	+	—	—	+				—
※ 68	—	++	+	—	—	—	—	+	—	+	+	—	—				—
69	—	+	—	—	—	—	—	++	+++	—	—	++	+++				—
人工感染 ※ 1	+++	+++	+++	+++	+	—	—	—	—	—	++	—	—				—
2	++	+++	+++	+++	+++	—	—	+	—	—	—	—	—				—
※ 3	—	+	-	—	—	+	—	—	—	+++	+	—	—				—
※ 4	++	++	+	++	+	—	—	+++	+	++	—	—	—				—
※ 5	—	+	+++	+++	—	—	—	+++	++	++	—	++	—				—

2　淋巴腺の出血は本症に於ける常存の變狀にして本症の診斷上最重要視すべき變狀なりと云ふべし。

3　腸の釦　結節又はヂフテリー性義膜は本症の重要なる解剖的變狀なれども各例を通じ常存するものにあらず。殊に經過の急激なりし例及發病後早期に屠殺、解剖せられたる例に於ては該變狀は寧ろ稀なりとせざるべからず。さればかゝる腸の變狀なき例に於ても容易に本症に對する嫌疑を解くべからず。

4　本症に於て高度の肺炎の存在は混合感染菌の存在を意味するものにして、卽ちかゝる肺炎は感染菌の作用に歸すべきものなりと云ふべし。豚コレラ病毒による肺の著しき變狀は島嶼狀に現はるゝ漿液浸潤部の發生にして稀にかゝる變狀融合して廣大なる部分を占め、更に肺炎の初期なりと考ふべき場合存在するも、氣管支は未だ殆んど變狀を呈せず。卽ち本病毒は上述の如き肺の變狀を生じ、細菌の感染を容易ならしむるものなりと解するを得べし。

5　本實驗例に於て肺炎の原因となりたる細菌は豚疫菌、豚コレラ菌(Salmon & Smith)、化膿性桿菌、大腸菌及連鎖狀球菌なり。

6　細菌の混合感染なき肝、脾、淋巴腺の小なる壞疽性結節は殊に肝臟に於て多數に發生し本症の診斷上有力なる補助を提供すべし。

7　本症に於ては比較的多數例に於て肝及腎の間質及毛細管内に淋巴樣細胞の集積を認む。

8　腎の毛細管出血は殊に皮質に好發し、比較的多數の例に於て之を認めたり。

9　肺及脾に於ける出血性梗塞は比較的少數例に於て認むるを得たり。

文　　献

1. David, W. und Schwarz, M. : Arch. Tierheilk., 1930/31, Bd. 62, S. 315.
2. Röhrer, H. : Arch. Tierheilk., 1930/31, Bd. 62, S. 345, 439, 1932, Bd. 64, S. 125.
3. Ebrbeck, E. : Arch. Tierheilk., 1931, Bd. 63, S. 371.
4. Seifried, O and Cain, C. B. : J. Exp. Med., 1932, Vol. 56, P. 345, 351.
5. Lüttschwager : Arch. Tierheilk., 1932, Bd. 64, S. 236.
6. Seifried, O. : Arch. Tierheilk., 1932, Bd. 64, S. 432.

圖 版 說 明

染色は何れも Haematoxylin-Eosin 染色なり。

第 一 圖 版

1. 肝臟。× 80. 自然感染第33例。
   肝小葉内に小なる壞疽性結節の多數に存在すると間質に於ける淋巴樣細胞の浸潤を示す。
2. 肝臟。× 220. 同上例。
   上圖の中心靜脈附近にある結節を擴大したるもの

第 二 圖 版

3. 肝臟。× 190. 自然感染第7例。
   圖の向て右上の隅は中心靜脈にして左下の隅は小葉間質なり。小葉中心部廣く壞疽に陷り、毛細管は著しく鬱血す。小葉中部の肝細胞は著しく水腫性變性に陷り、周緣部は比較的變性の輕度なるを示す。
4. 肝臟。× 190. 自然感染第61例。
   中心靜脈周圍に於ける淋巴樣細胞の集積を示す。

第 三 圖 版

5. 肝臟。× 190. 同上例。
   小葉間質に於ける淋巴樣細胞の集積を示す。
6. 腎臟。× 190. 自然感染第30例。
   曲細尿管の著しき水腫性變性を示す。

第 四 圖 版

7. 腎臟。× 190. 自然感染第61例。
   絲毬體附近に於ける淋巴樣細胞の集積を示す。
8. 脾臟。× 190. 自然感染第55例。
   淋巴濾胞内及その周圍に於ける小なる壞疽性結節を示す。

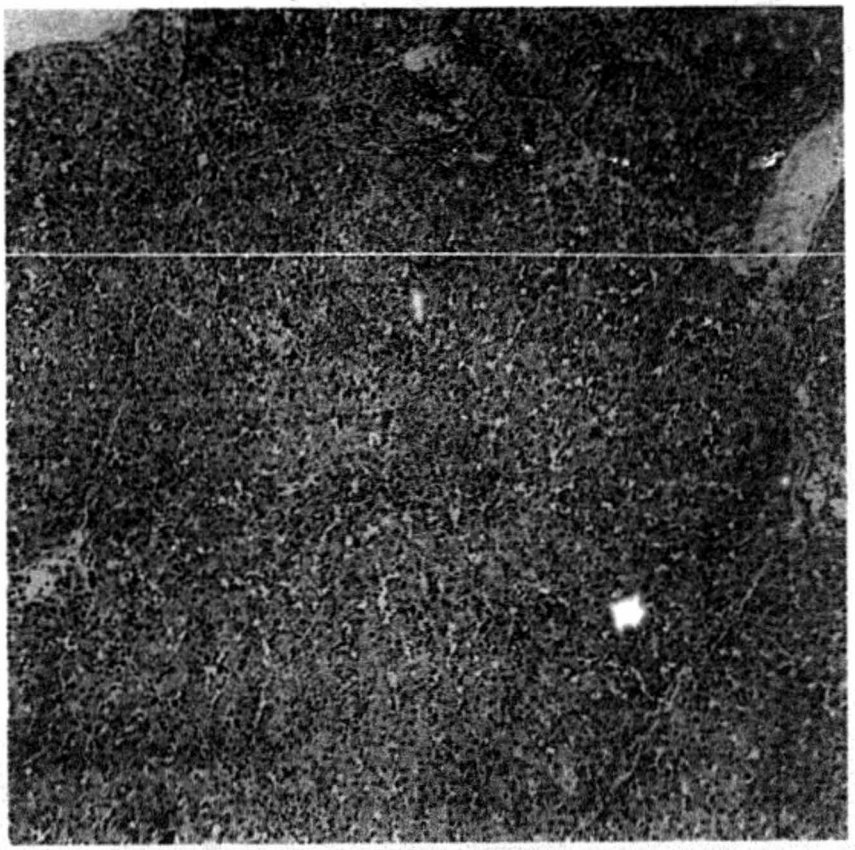
第 五 圖 版

9. 淋巴腺。× 30. 自然感染第61例。
   淋巴腺の出血を示す。
10. 淋巴腺 × 190. 自然感染第55例。
    多數の細小なる壞疽性結節を示す。

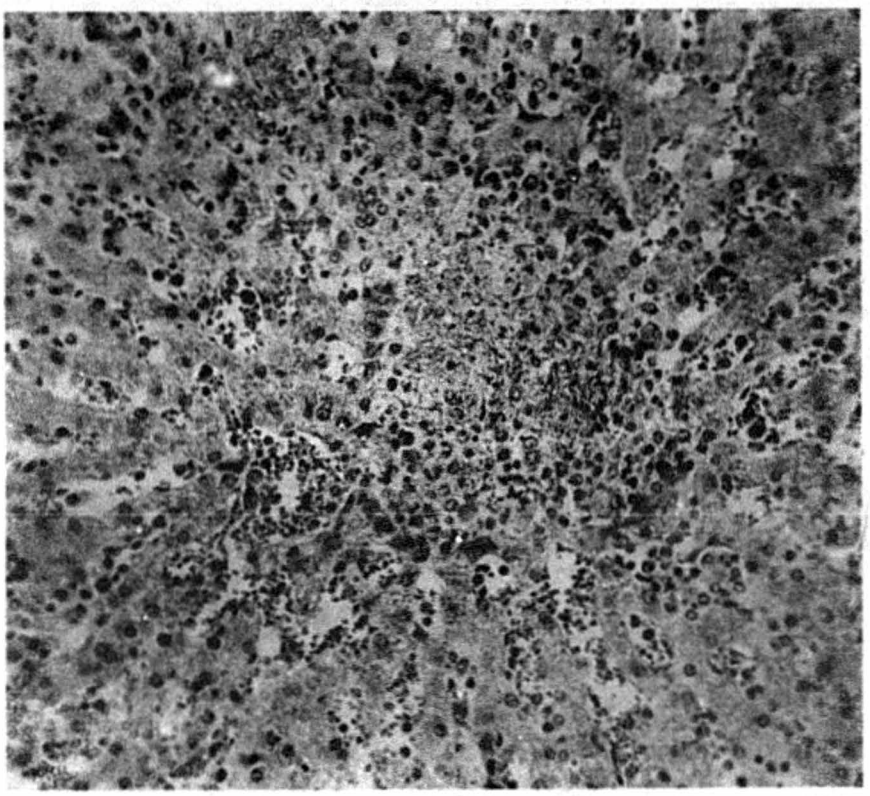
第 六 圖 版

11. 肺臟。× 190. 自然感染第11例。
    肺の無氣浸潤部にして肺胞に上皮の脫落と漿液及赤血球の浸潤あるを示す。
12. 肺臟。× 190. 自然感染第51例。
    細氣管枝周圍に於ける肺胞の漿液浸潤と圓形細胞浸潤を示す。細氣管枝内にも圓形細胞充滿す。

第一圖版

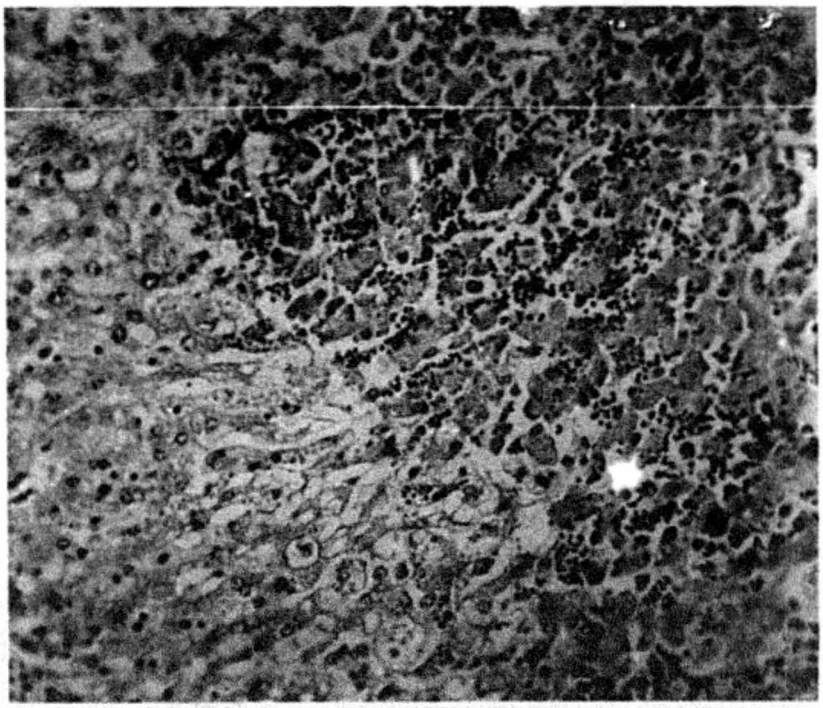


1

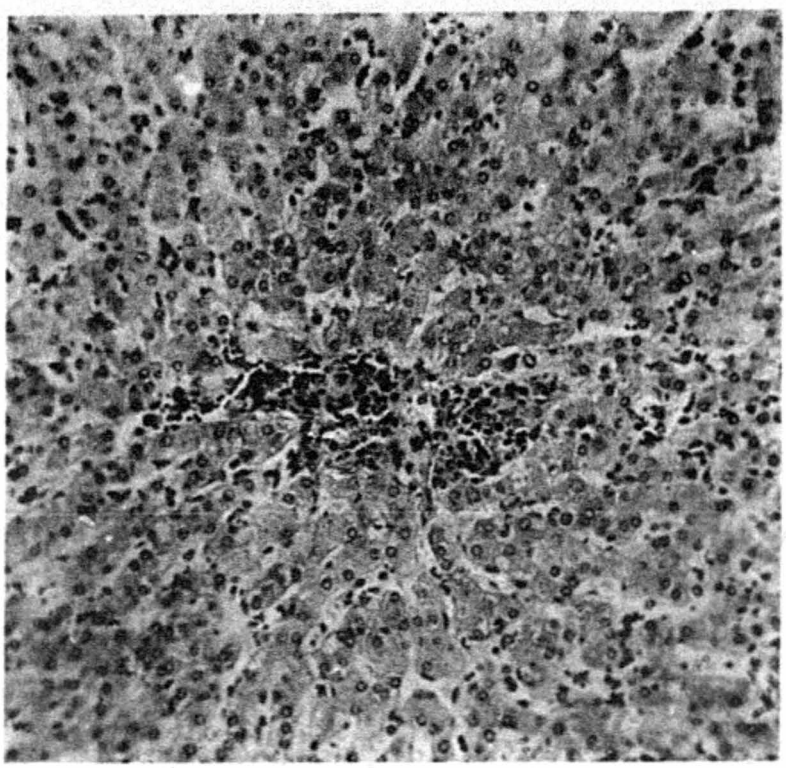


2

第 二 圖 版

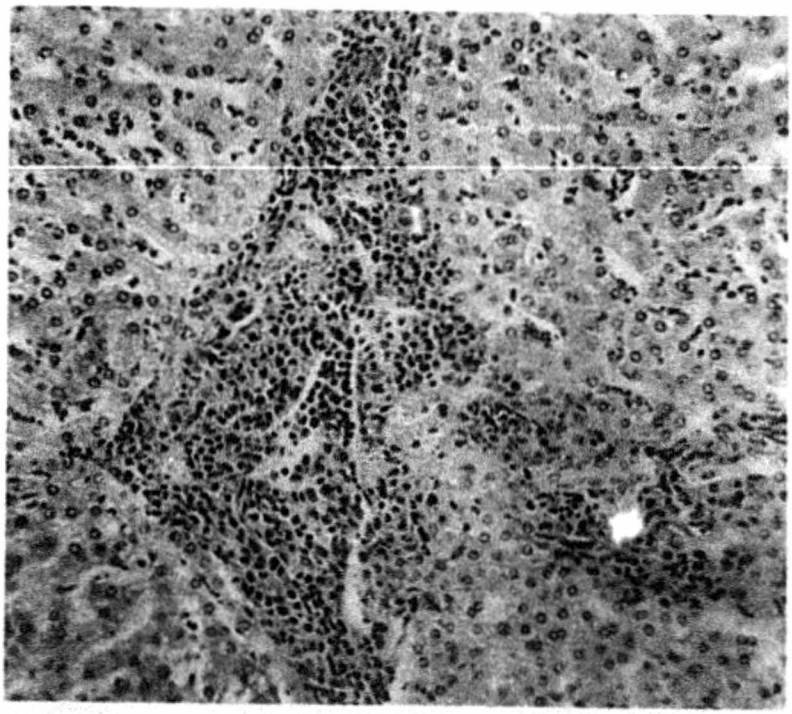


3

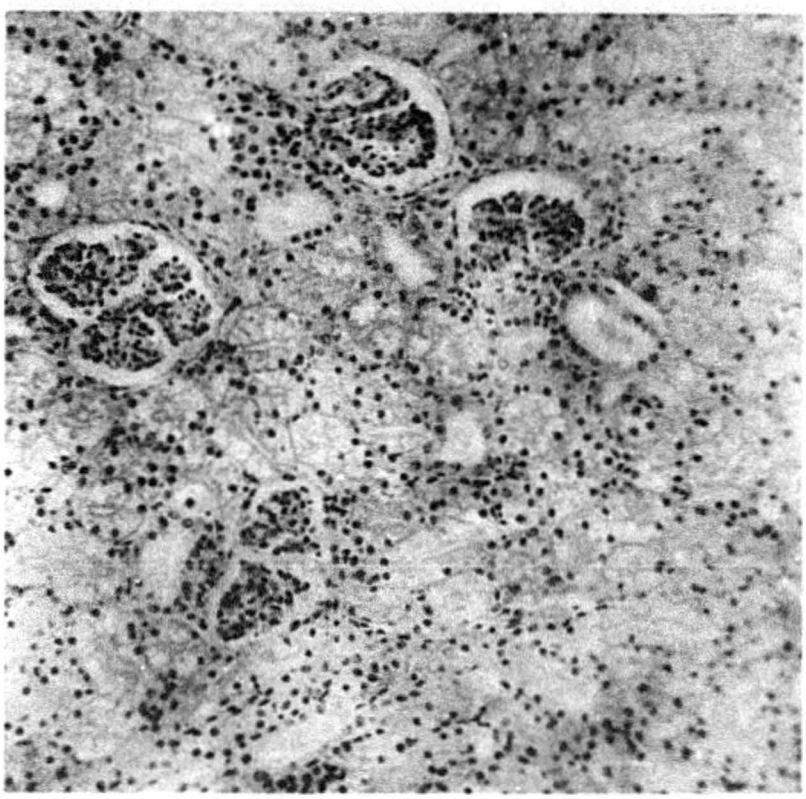


4

第 三 圖 版

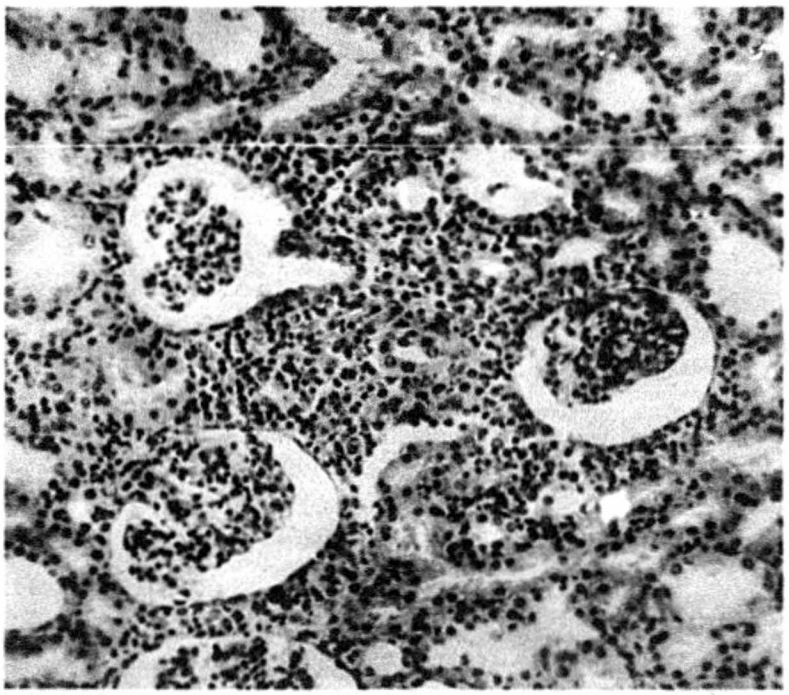


5

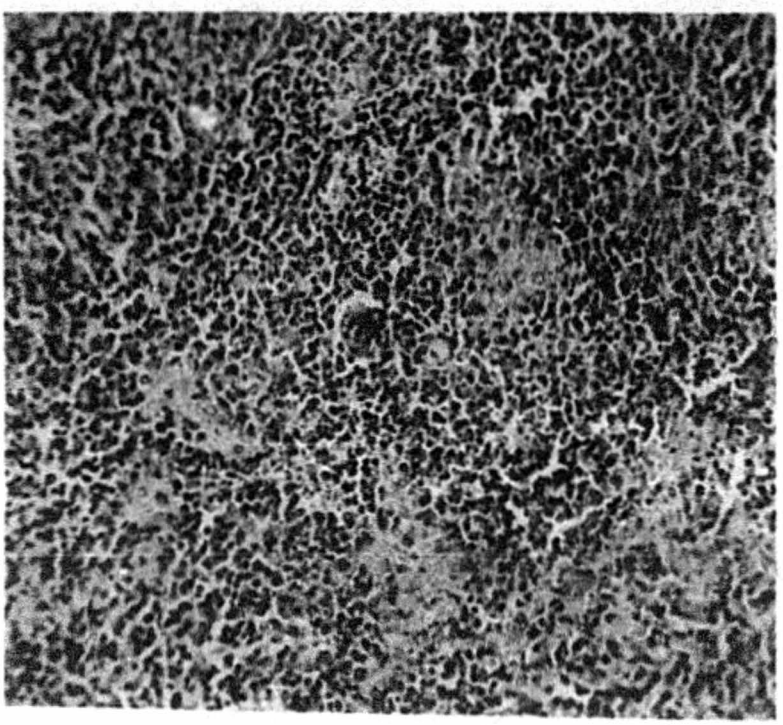


6

第 四 圖 版

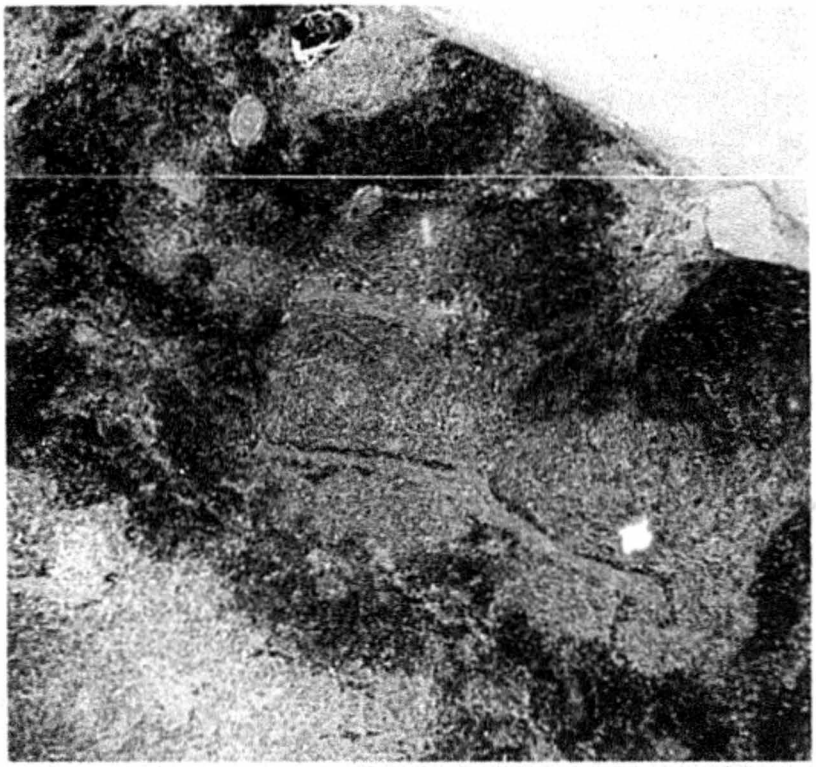


7

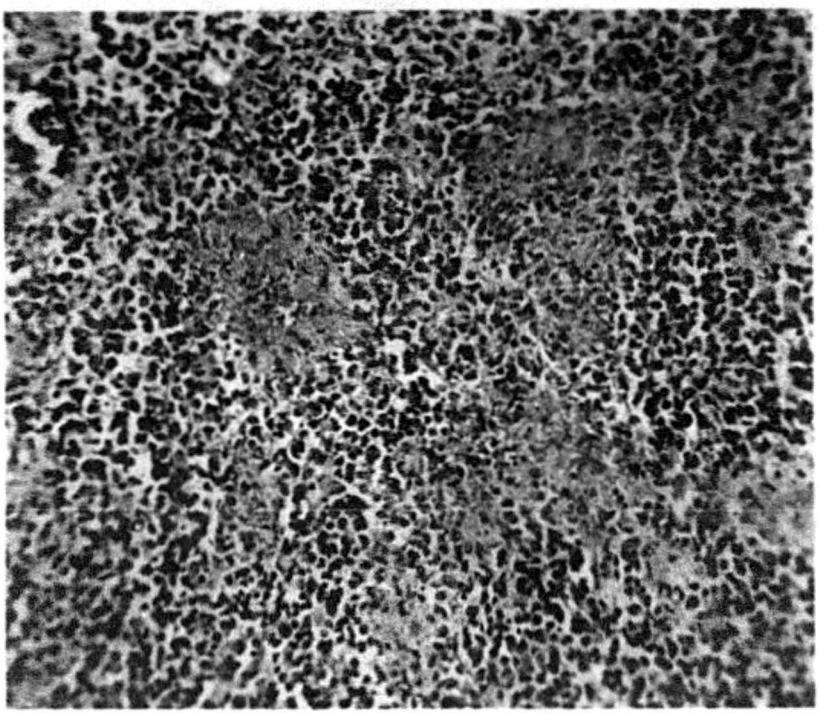


8

第 五 圖 版

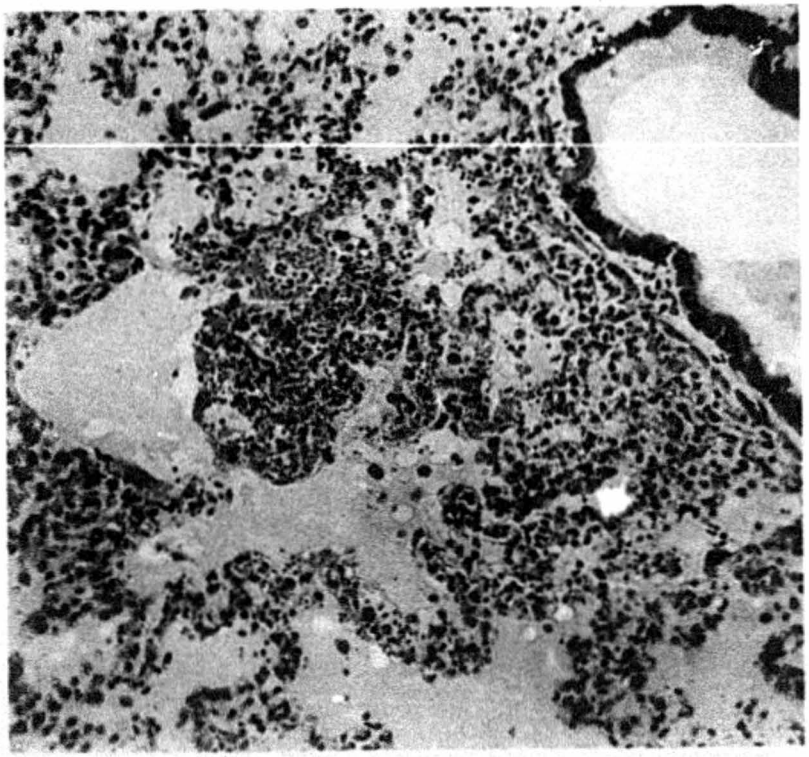


9

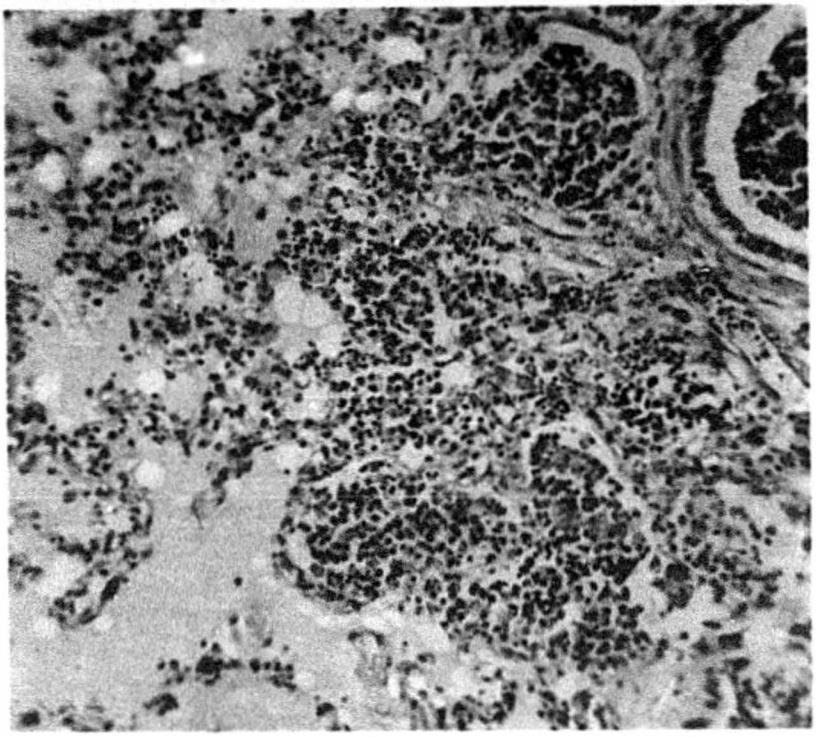


10

第 六 圖 版



11



12